

令和5（2023）年度 事業報告書



SEITOKU

学校法人 東京聖徳学園

目 次

I. 学校法人の概要

1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	1
4. 設置学校等	5
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況	6
6. 主要な運営指標等の推移	8
7. 役員の概要	10
8. 評議員の概要	11
9. 教職員の概要	12

II. 事業の概要

1. 法人（学園全体）	14
2. 聖徳大学・聖徳大学短期大学部	16
3. 聖徳大学幼児教育専門学校	25
4. 光英 VERITAS 中学校・高等学校	28
5. 聖徳大学附属取手聖徳女子中学校・高等学校	32
6. 聖徳大学附属小学校	37
7. 聖徳大学附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園	40
8. 聖徳大学三田幼稚園	44
9. 聖徳大学八王子幼稚園	46
10. 聖徳大学多摩幼稚園	49

III. 財務の概要

51

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

- | | |
|--------------|---|
| ① 法人の名称 | 学校法人東京聖徳学園 |
| ② 主たる事務所の住所 | 東京都港区三田三丁目4番28号 |
| ③ 電話番号 | 03-5476-8811 |
| ④ FAX 番号 | 03-5476-8820 |
| ⑤ ホームページアドレス | https://www.seitoku-u.ac.jp/gakuen/ |

2. 建学の精神

聖徳学園の創立は、昭和8年（1933年）にまでさかのぼります。学園創立者の川並香順先生・孝子先生は、より豊かな人間社会を実現するには、豊かな人間性と真の意味の学力を備えた「人づくり」が最も重要だと思い至りました。「人づくり」を実現するために建学の精神は、道徳や礼節を説いた聖徳太子の教えにもある「和」の精神と定め、聖徳学園を開学しました。

より豊かな人間社会を実現するためには、学園創立当時には社会的な弱者であった女性と幼児の教育が最も大切だと考え、女子教育と幼児教育に専念しました。以来、時代にふさわしい女子教育と幼児教育を実践することで多くの成果をあげ、「保育の聖徳®」と高い評価を得るに至りました。

教育の本質は「大切なことは何か」を教えることです。大切なものとは、いつの時代も変わらない人間としての生き方です。私たちはその考え方を、創立者川並香順・孝子両先生の時代から連綿と受け継ぎ、幼児教育から高等教育まで一貫した教育により、実現してきました。

そして、私たちの実践する教育は、卒業し、社会人となったとき、また家庭人になったときに、はじめて結実する人間教育にほかならないのです。

3. 学校法人の沿革

- | | | |
|----------|-------|--|
| 昭和 8 年 | 4 月 | 東京市大森において聖徳家政学院、新井宿幼稚園を創立(現 大田区) |
| 昭和 1 9 年 | 3 月 | 聖徳家政学院を聖徳学園保母養成所として設立認可 |
| 昭和 2 4 年 | 3 月 | 財団法人聖徳学園を東京都港区三田に設立認可 |
| 昭和 2 7 年 | 1 0 月 | 新井宿幼稚園は聖徳学園三田幼稚園として再開 |
| 昭和 2 9 年 | 7 月 | 聖徳学園三田幼稚園を設置認可 |
| 昭和 3 2 年 | 4 月 | 財団法人聖徳学園は学校法人東京聖徳学園として設立認可 |
| 昭和 4 0 年 | 1 月 | 聖徳学園短期大学を千葉県松戸市相模台に設置認可
短期大学に家政科、保育科を設置認可 |
| 昭和 4 1 年 | 4 月 | 聖徳学園短期大学附属幼稚園を千葉県松戸市相模台に設置認可 |
| 昭和 4 4 年 | 2 月 | 短期大学に文学科、音楽科、保育科第二部を設置認可 |
| 昭和 4 6 年 | 3 月 | 聖徳学園短期大学附属第二幼稚園を千葉県松戸市小金原に設置認可 |
| 昭和 4 7 年 | 1 月 | 短期大学に初等教育学科を設置認可
短期大学に通信教育部保育科を開設認可 |
| 昭和 4 9 年 | 3 月 | 聖徳学園八王子中央幼稚園を東京都八王子市櫛田町に設置認可 |

昭和51年	2月	聖徳学園短期大学附属第三幼稚園を千葉県成田市に設置認可
	3月	聖徳学園多摩中央幼稚園を東京都八王子市鹿島に設置認可
	4月	聖徳学園短期大学教員保母養成所は専修学校として聖徳学園短期大学附属教員保母養成所を設置認可
昭和58年	3月	聖徳学園短期大学附属中学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
		聖徳学園短期大学附属高等学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
		聖徳学園短期大学附属聖徳高等学校を茨城県北相馬郡藤代町に設置認可
昭和59年	3月	聖徳学園短期大学附属聖徳中学校を茨城県北相馬郡藤代町に設置認可
昭和61年	3月	聖徳学園短期大学附属小学校を千葉県松戸市秋山に設置認可
平成元年	12月	聖徳大学人文学部を千葉県松戸市岩瀬に設置認可
		人文学部に児童学科、日本文化学科、英米文化学科を設置認可
平成2年	4月	聖徳学園短期大学を聖徳大学短期大学部に校名変更
		聖徳学園短期大学附属各校(園)を聖徳大学附属各校(園)に校名変更
		聖徳学園短期大学附属教員保母養成所を聖徳大学幼児教育専門学校に校名変更
平成9年	12月	聖徳大学大学院を設置認可
		大学院に児童学研究科児童学専攻(修士課程)、言語文化研究科日本文化専攻(修士課程)・英米文化専攻(修士課程)を設置認可
		人文学部児童学科、日本文化学科、英米文化学科に第3年次編入学定員を設定
平成10年	12月	大学院に通信教育を開設認可
		大学院(通信教育)に児童学研究科を開設認可
		人文学部に音楽文化学科を設置認可
平成11年	7月	人文学部に現代ビジネス学科を設置認可
	12月	短期大学部に介護福祉学科第一部介護福祉学科第二部を設置認可
平成12年	5月	人文学部に生活文化学科を設置認可
	12月	人文学部に通信教育を開設認可
		通信教育部人文学部に児童学科、日本文化学科、英米文化学科を開設認可
平成13年	4月	聖徳大学家族問題相談センターを千葉県松戸市岩瀬に設置認可
	8月	人文学部に臨床心理学科(昼間主・夜間主)を設置認可
	12月	聖徳大学大学院に音楽文化研究科音楽表現専攻(修士課程)・音楽教育専攻(修士課程)を設置認可
平成14年	5月	人文学部に外国語学科を設置認可
	12月	大学院児童学研究科(博士後期課程)(通信教育)を開設認可
		大学院人間栄養学研究科(博士前期・後期課程)を設置認可
平成15年	6月	短期大学部に総合文化学科を設置(届出受理)
	11月	大学院に音楽文化研究科音楽専攻(博士後期課程)を設置認可
		大学院に臨床心理学研究科(博士前期・後期課程)を設置認可
		聖徳大学サテライトキャンパスを港区三田に設置
平成16年	3月	聖徳大学附属浦安幼稚園を浦安市日の出に設置認可
	7月	人文学部に社会福祉学科(昼間主・夜間主)の設置(届出受理)
		通信教育部人文学部に社会福祉学科の設置(届出受理)
平成17年	3月	聖徳大学生涯学習社会貢献センターが松戸市亀井に設置
	4月	人文学部に生涯教育文化学科を設置
	10月	通信教育部人文学部に心理学科を設置
		人文学部の臨床心理学科を心理学科に名称変更

	1 2 月	短期大学部の文学科を廃止
平成 1 8 年	3 月	短期大学部の生活文化学科を廃止 人文学部の生活文化学科を人間栄養学科に名称変更及び専攻分離廃止
	9 月	短期大学部専攻科の福祉専攻を介護福祉専攻に名称変更
	1 2 月	人文学部の社会福祉学科（昼間主）に社会福祉コース、介護福祉コースを設定 短期大学部の介護福祉学科第一部を介護福祉学科に名称変更
平成 1 9 年	3 月	人文学部の社会福祉学科（昼間主）介護福祉コースが介護福祉養成施設に指定される
	6 月	聖徳大学の人文学部児童学科を児童学部児童学科に改組 聖徳大学通信教育部の人文学部児童学科を児童学部児童学科に改組 聖徳大学の人文学部音楽文化学科を音楽学部演奏学科及び音楽総合学科に改組 人文学部の現代ビジネス学科を女性キャリア学科に名称変更
平成 2 0 年	1 0 月	大学院に教職研究科（専門職学位課程：教職大学院）を設置認可
平成 2 1 年	3 月	短期大学部の介護福祉学科第二部を廃止
	7 月	聖徳大学の人文学部人間栄養学科を人間栄養学部人間栄養学科に改組 附属高等学校を附属女子高等学校に校名変更 附属中学校を附属女子中学校に校名変更 附属聖徳高等学校を附属取手聖徳女子高等学校に校名変更 附属聖徳中学校を附属取手聖徳女子中学校に校名変更
平成 2 2 年	3 月	短期大学部の介護福祉学科を廃止並びに介護福祉士養成施設の指定取消
平成 2 3 年	6 月	聖徳大学の人文学部心理学科、社会福祉学科を心理・社会福祉心理学科、社会福祉学科に改組
平成 2 3 年	9 月	聖徳大学の人文学部児童学科（夜間主コース）及び人文学部音楽文化学科を廃止
平成 2 4 年	3 月	附属第三幼稚園を附属成田幼稚園に園名変更
	8 月	聖徳大学の人文学部生涯文化学科、女性キャリア学科、英米文化学科、日本文化学科を文学部文学科に改組
	1 0 月	聖徳大学語学教育センター、並びに聖徳大学教職実践センターを設置
平成 2 5 年	4 月	聖徳大学聖徳ラーニングデザインセンターを設置
	1 0 月	聖徳大学看護学部看護学科を設置認可
平成 2 6 年	3 月	短期大学部の専攻科介護福祉専攻を廃止 幼児教育専門学校の教員養成専門課程の幼児教育科第 2 部を廃止
平成 2 7 年	3 月	聖徳大学の人文学部人間栄養学科を廃止
平成 2 8 年	3 月	聖徳大学の人文学部児童学科（昼間主コース）及び通信教育部人文学部児童学科を廃止
	5 月	聖徳大学の人文学部生涯教育文化学科を廃止
平成 2 9 年	3 月	聖徳大学の人文学部女性キャリア学科を廃止
	8 月	大学院看護学研究科（修士課程）を設置認可
令和 2 年	3 月	短期大学部専攻科保育専攻（昼間主コース）、保育専攻（夜間主コース）、通信教育部専攻科保育専攻を廃止 附属取手聖徳女子高等学校体育科を廃止
	8 月	聖徳学園三田幼稚園を聖徳大学三田幼稚園へ園名変更 聖徳学園八王子中央幼稚園を聖徳大学八王子幼稚園へ園名変更 聖徳学園多摩中央幼稚園を聖徳大学多摩幼稚園へ園名変更

	1	1 月	聖徳大学附属女子高等学校を光英 VERITAS 高等学校へ校名変更 聖徳大学附属女子中学校を光英 VERITAS 中学校へ校名変更
令和	3 年	3 月	聖徳大学の人文学部を廃止
		4 月	聖徳大学の児童学部児童学科を教育学部児童学科、教育学科に改組
令和	5 年	3 月	聖徳大学の音楽学部演奏学科、音楽総合学科を廃止 聖徳大学短期大学部専攻科服飾文化専攻を廃止

4. 設置学校等

令和6年3月31日現在

学校法人 東京聖徳学園

所在地 東京都港区三田三丁目4番28号

理事長 川並 弘純

聖徳大学

所在地 千葉県松戸市岩瀬550

学長 川並 弘純

聖徳大学短期大学部

所在地 千葉県松戸市岩瀬550

学長 川並 弘純

聖徳大学幼児教育専門学校

所在地 東京都港区三田三丁目4番28号

校長 川並 順

光英 VERITAS 高等学校

所在地 千葉県松戸市秋山600

校長 川並 芳純

聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校

所在地 茨城県取手市山王1000

校長 湯澤 義文

光英 VERITAS 中学校

所在地 千葉県松戸市秋山600

校長 川並 芳純

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校

所在地 茨城県取手市山王1000

校長 湯澤 義文

聖徳大学附属小学校

所在地 千葉県松戸市秋山600

校長 三須 吉隆

聖徳大学附属幼稚園

所在地 千葉県松戸市岩瀬550

園長 川並 珠緒

聖徳大学附属第二幼稚園

所在地 千葉県松戸市小金原七丁目14番地

園長 川並 珠緒

聖徳大学附属成田幼稚園

所在地 千葉県成田市中台三丁目8番地

園長 川並 珠緒

聖徳大学附属浦安幼稚園

所在地 千葉県浦安市日の出五丁目4番2号

園長 川並 珠緒

聖徳大学三田幼稚園

所在地 東京都港区三田三丁目4番28号

園長 塩 美佐枝

聖徳大学八王子幼稚園

所在地 東京都八王子市桐田町1003番地

園長 中川 奈津子

聖徳大学多摩幼稚園

所在地 東京都八王子市鹿島1番

園長 三枝 勢津子

5. 学校・学部・学科等の学生数の状況

令和5年5月1日現在

聖徳大学

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教育学部	児童学科（昼間主コース）	325	202	650	425
	児童学科（夜間主コース）	7	3	14	7
	教育学科（昼間主コース）	80	30	160	66
	教育学科（夜間主コース）	3	1	6	2
児童学部	児童学科（昼間主コース）	—	—	916	615
	〃（夜間主コース）	—	—	24	21
心理・福祉学部	心理学科	60	53	244	238
	社会福祉学科	80	83	330	322
文学部	文学科	110	88	422	380
人間栄養学部	人間栄養学科	160	94	690	466
看護学部	看護学科	80	74	320	312
音楽学部	音楽学科	60	27	244	94

（通信教育課程）

学部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教育学部	児童学科	120	10	240	38
	教育学科	80	3	160	15
児童学部	児童学科	—	—	900	475
心理・福祉学部	心理学科	100	75	700	1,759
	社会福祉学科	200	36	900	1,052
文学部	文学科	200	28	880	387

教職大学院

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
教職研究科	教職実践専攻（専門職学位課程）	15	3	30	12

大学院

（修士課程・博士前期課程）

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
児童学研究科	児童学専攻	50	4	100	8
	〃（通信教育課程）	50	4	100	37
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	30	7	60	11
言語文化研究科	日本文化専攻	6	1	12	4
	英米文化専攻	6	0	12	1
人間栄養学研究科	人間栄養学専攻	10	2	20	3
看護学研究科	看護学専攻	8	3	16	11
音楽文化研究科	音楽表現専攻	5	6	10	10
	音楽教育専攻	5	3	10	4

(博士後期課程)

研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
児童学研究科	児童学専攻	5	1	15	2
	〃 (通信教育課程)	5	0	15	8
臨床心理学研究科	臨床心理学専攻	5	0	15	0
言語文化研究科	日本文化専攻	3	0	9	0
	英米文化専攻	3	0	9	0
人間栄養学研究科	人間栄養学専攻	3	0	9	2
音楽文化研究科	音楽専攻	5	1	15	6

聖徳大学短期大学部

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
保育科第一部	160	95	320	211
保育科 (通信教育課程)	200	37	600	348
保育科第二部	10	8	30	24
総合文化学科	50	42	100	83

専攻科

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
医療保育専攻	5	3	5	3

附属学校

学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
聖徳大学幼児教育専門学校	140	43	315	71
光英 VERITAS 高等学校	459	115	1,377	368
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校	70	73	210	191
光英 VERITAS 中学校	160	108	480	335
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	—	—	—	—
聖徳大学附属小学校	105	75	630	432
聖徳大学附属幼稚園	—	—	400	267
聖徳大学附属第二幼稚園	—	—	400	197
聖徳大学附属成田幼稚園	—	—	270	92
聖徳大学附属浦安幼稚園	—	—	300	147
聖徳大学三田幼稚園	—	—	315	295
聖徳大学八王子幼稚園	—	—	320	97
聖徳大学多摩幼稚園	—	—	400	48

6. 主要な運営指標等の推移

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生在籍者数（単位：名）					
大 学 院（通学）	86	91	78	68	74
（通信）	61	71	68	61	45
大 学（通学）	3,182	3,211	3,173	3,222	2,948
（通信）	2,327	2,442	2,793	3,419	3,726
短期大学（通学）	459	462	390	334	321
（通信）	379	361	369	359	348
附 属 校	2,438	2,438	2,465	2,496	2,540
教職員数（単位：名）					
大学・大学院教員数	259	265	251	240	246
短期大学教員数	50	46	45	43	38
附属教員数	202	199	194	194	190
職員数	226	218	210	209	206
事業活動収入（単位：百万円）	10,134	9,805	9,801	10,658	10,511
事業活動支出（単位：百万円）	12,383	12,054	11,762	12,579	12,677
資金収入（単位：百万円）	15,895	13,352	13,080	17,016	14,204
資金支出（単位：百万円）	15,653	14,125	14,600	15,195	15,482

区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業活動収支関係財務比率（単位：％）					
①事業活動支出比率	122	123	120	118	121
②学生生徒等納付金比率	75	75	74	72	70
③人件費比率	64	64	63	58	58
④教育研究経費比率	45	43	42	45	44
⑤事業活動収支差額比率	-22	-23	-20	-18	-21
⑥補助金比率	17	15	15	16	15
⑦寄付金比率	2	2	1	2	3
貸借対照表関係財務比率（単位：％）					
⑧流動比率	173	136	103	148	125
⑨基本金比率	95	95	96	97	96
⑩負債比率	24	23	23	26	25

（注）上記指標は、次の算式により算出しております。

- ① 事業活動支出比率＝事業活動支出／事業活動収入
- ② 学生生徒等納付金比率＝学生生徒等納付金／経常収入(※)
- ③ 人件費比率＝人件費／経常収入(※)
- ④ 教育研究経費比率＝教育研究経費／経常収入(※)
- ⑤ 事業活動収支差額比率＝基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入
- ⑥ 補助金比率＝補助金／事業活動収入
- ⑦ 寄付金比率＝寄付金／事業活動収入
- ⑧ 流動比率＝流動資産／流動負債
- ⑨ 基本金比率＝基本金／基本金要組入額
- ⑩ 負債比率＝総負債／純資産

※「経常収入」＝教育活動収入＋教育活動外収入

7. 役員の概要

令和6年3月31日現在

理事 定数 8～10 名

	氏名	当初就任年月日	常勤・非常勤 の別	役員賠償 責任保険 契約	責任限定 契約
理事長	川並 弘純	平成 18 年 6 月 1 日	常勤	○	—
常務理事	川並 芳純	平成 23 年 5 月 30 日	常勤	○	—
理事	池田 清英	昭和 59 年 3 月 12 日	非常勤	○	○
理事	石井 敬一郎	平成 28 年 4 月 1 日	非常勤	○	○
理事	河村 守康	昭和 62 年 3 月 4 日	非常勤	○	○
理事	小林 敬治	平成 12 年 4 月 2 日	非常勤	○	○
理事	武内 昌史	平成 19 年 6 月 1 日	非常勤	○	○
理事	増井 三夫	平成 24 年 2 月 8 日	常勤	○	—
理事	三須 吉隆	令和元年 6 月 1 日	常勤	○	—

監事 定数 2～3 名

	氏名	当初就任年月日	常勤・非常勤 の別	役員賠償 責任保険 契約	責任限定 契約
監事	末廣 敬邦	平成 3 年 9 月 23 日	非常勤	○	○
監事	神本 忠夫	令和 4 年 10 月 1 日	常勤	○	○
監事	山口 富彌	令和 5 年 1 月 10 日	非常勤	○	○

役員賠償責任保険契約

- ・被保険者 理事、監事、評議員、設置校の校長、園長等
- ・補償内容 学園又は第三者に対する損害賠償を補償。
学園教職員に対するハラスメントや不当解雇、差別行為等のほか、過労死・過労自殺に起因し、損害賠償請求がなされた場合に、法律上の損害賠償金、訴訟費用、訴訟対応費用、法人調査費用が補償される。
- ・保険期間 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
- ・保険期間中総支払限度額 3億円

責任限定契約

賠償責任の限度額は、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律で定める額（以下「最低責任限度額」という。）を上限にこの法人があらかじめ定めた額（年間報酬額に2を乗じた額）と、最低責任限度額とのいずれか高い額とする契約。

8. 評議員の概要

令和6年3月31日現在

評議員 定数 19～23 名

選任区分	氏名	当初就任年月日
第1号	川並 弘純	平成5年4月2日
	川並 芳純	平成14年4月2日
	川並 孝純	平成18年6月1日
	増井 三夫	平成24年2月8日
	辻 正行	平成24年6月1日
	三須 吉隆	平成29年4月2日
第2号	長江 曜子	昭和63年7月16日
	高橋 博子	平成13年12月13日
	川並 順	平成28年4月1日
第3号	川並 珠緒	平成23年7月11日
	三枝 勢津子	令和元年6月1日
	湯澤 義文	令和2年6月1日
	中川 奈津子	令和2年6月1日
	塩 美佐枝	令和5年6月1日
第4号	川並 知子	昭和37年7月1日
	川並 妙子	昭和37年7月1日
	池田 清英	昭和59年3月12日
	河村 守康	昭和62年3月4日
	小林 敬治	平成12年4月2日
	武内 昌史	平成20年6月1日
	石井 敬一郎	平成28年4月1日
	浦田 幸利	令和3年6月1日
	野田 聖子	令和4年10月1日

9. 教職員の概要

令和5年5月1日現在

設置学校等	教員	職員	合計
本 部	—	30 名	30 名
聖徳大学	246 名	113 名	359 名
聖徳大学短期大学部	38 名	25 名	63 名
聖徳大学幼児教育専門学校	12 名	4 名	16 名
光英 VERITAS 高等学校	41 名	3 名	44 名
聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校	24 名	4 名	28 名
光英 VERITAS 中学校	24 名	3 名	27 名
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校	0 名	0 名	0 名
聖徳大学附属小学校	25 名	3 名	28 名
聖徳大学附属幼稚園	12 名	8 名	20 名
聖徳大学附属第二幼稚園	12 名	3 名	15 名
聖徳大学附属成田幼稚園	6 名	2 名	8 名
聖徳大学附属浦安幼稚園	9 名	1 名	10 名
聖徳大学三田幼稚園	12 名	5 名	17 名
聖徳大学八王子幼稚園	8 名	1 名	9 名
聖徳大学多摩幼稚園	5 名	1 名	6 名
計	474 名	206 名	680 名

《参考》女性活躍推進計画の目標達成状況

(計画期間：令和3年4月1日～令和8年3月31日)

目標	達成状況
① 課長相当職の女性管理職を育成し、管理職に占める女性割合 30%を維持する。	令和5年5月1日現在 36.1% (119 名中 43 名が女性管理職)
② 女性職員の平均継続勤務年数の男性職員平均勤続年数に対する比率 70%達成	令和5年5月1日現在 72.1% (男性 13.6 年に対し女性 9.8 年)
③ 女性職員の育児休業取得率の維持 (90%以上) 及び男性職員の育児休業等取得推奨のための施策の実施。	令和5年度実績 ・ 女性職員の育児休業取得率 100.0% (出産した職員数／育児休業取得者数 6 名／6 名) ・ 男性職員の育休取得者 1 名

Ⅱ. 事業の概要

学校法人東京聖徳学園は、昭和8（1933）年に学園創立者の川並香順・孝子両先生によって創立されました。その建学の精神は「和」であり、全人的な教育を目指し発展を続けてきました。

社会の成熟と共に技術の進歩により、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、ボーダーレスとバーチャルリアリティの時代を迎えました。そして、建学の精神「和」が示す概念も外向きのベクトルを指向することが求められるようになりました。

令和5（2023）年、学校法人東京聖徳学園は創立90周年を迎えました。この重要な節目の年に、創立100周年に向けて発展することを目指して、建学の精神「和」をグローバル、ダイバーシティ、サステナブルの視点から捉えた「聖徳学園 教育改革のための3つの起点」を定義いたしました。

聖徳学園 教育改革のための3つの起点

聖徳学園のグローバル

自己のアイデンティティを大切にしつつ、世界へ開かれた思考と行動を目指すもの

聖徳学園のダイバーシティ

「和」を基本とし、異なる価値観の受容と他者との協創を目指すリーダーシップ精神の醸成

聖徳学園のサステナブル

社会変化に対応できるレジリエンスを重んじ成長を続ける意思と態度

この「聖徳学園 教育改革のための3つの起点」を足掛かりとして教育改革を推進するとともに、各種施策に取り組んでおります。

1. 法人（学園全体）

【管理運営】

（１）学園全体の中期計画及び各部門の年度計画の着実な実行

常任理事会の下に設置されている「総合改革推進プロジェクトチーム」が中心となり学園全体の中期計画及び各部門の年度計画の目標を組織的に進捗管理し、「中期計画WG」、「教育研究改革WG」、「学生募集戦略WG」、「IR戦略WG」において、学園のビジョン達成に向け、解決すべき課題ごとに取り組みを進めました。

（２）周年記念事業

① 聖徳大学グループ

令和5年10月6日（金）に聖徳大学川並香順記念講堂において、「学校法人東京聖徳学園創立90周年記念式典」を挙行了しました。また、創立90周年を記念して、「聖徳学園90年の歩み」の刊行、記念募金の募集、特別展等を開催しました。

② 聖徳大学三田幼稚園

令和5年11月14日（火）に三田キャンパスにおいて「聖徳大学三田幼稚園創立90周年記念式典」を挙行了しました。

（３）募金の募集

本学園の財政基盤を強化し、教育研究活動を支援するため、募金の募集を行いました。これまでに、保護者、卒業生、教職員をはじめ、法人及び団体、個人の皆様から多くのご芳志を賜りました。

《令和5年度実績》

募金名	件数	金額
学園創立90周年記念募金	139件	101,078,320円
聖徳教育学術振興募金	32件	9,281,000円
Seitoku古本募金（※）	－	－
聖徳大学香和会50周年記念奨学基金	4件	162,000円
合計	175件	110,521,320円

（※）Seitoku古本募金は、提携業者の古本受入要件の変更に対応するため、現在受付を休止している。

（４）「SD研修5ヵ年計画」の推進

教職員の能力及び資質の向上のため、「SD研修5ヵ年計画」に基づき研修を実施し、必要な知識等の修得を図りました。加えて、事務職員については、同計画に基づき、段階的な育成のため、職位に応じた知識やマネジメント能力等の修得を図りました。

（５）学園施設の有効活用

① 「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」の活用

「信州佐久 春日温泉 自然体感リゾート かすがの森」は、大学及び短期大学のFC（Freshmen Camp 初年次教育研修）、附属学校の校外学習等の場として活用し、さらな

る有効活用と良好な維持管理ができるよう取り組みを行いました。令和5年度の利用者数は延べ13,367人（前年比734人増）でした。

② 「山中湖ガーデンヴィラ」の活用

聖徳学園山中湖荘「山中湖ガーデンヴィラ」を令和5年7月14日～令和5年9月24日の期間で運営しました。令和5年の営業期間における利用者数は延べ1,352人（前年度比572人増）でした。

③ 遊休施設の活用

本学園が法人管理用地として所有している遊休資産のうち、将来の使用見込みが低いものについて、今後の事業展開を見据え売却しました。

（6）経費の削減

経費削減を推進するために、部門・目的別予算配分額の妥当性を見直しを行い、当該部門と予算編成の精度を高め、予算執行管理との紐付けをより強化しました。外部コンサルタントと連携した業務事業別・配布先別の詳細予算の策定により、経費削減可能項目の洗い出しと削減率の設定を実施し、経費削減可能項目について、令和4年度比25%減を達成するための予算を策定しました。

（7）エネルギー使用量の削減

全学的な省エネルギー推進委員会を立ち上げ、学園全ての施設において徹底的に省エネルギーを推進し、主要エネルギーである電気使用量を削減し、SDGsの達成に貢献するとともに、経費削減に取り組みました。

（8）ガバナンス・コードの活用

自主的な行動規範であるガバナンス・コードを活用し、経営の安定性・継続性の確保、自律的なガバナンス体制の確立、教学ガバナンスの充実、及び情報の公開に努めました。

2. 聖徳大学・聖徳大学短期大学部

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 「Business Field Linkage」副専攻化と最先端の教育推進

これまで進めてきた Business Field Linkage の学びを、令和5年度より副専攻プログラムとして本格始動しています。このプログラムでは、以下の到達目標の達成を目指します。

- ①変革する時代において先見的な視点と活用できるスキルを身に付け、自分のキャリアを切り拓く力を身に付ける
- ②国際的な教養を身に付け、世界や日本の諸問題に興味を持ち自分なりの考えが言える
- ③価値観の多様性を受入れチームとして成果を出せるリーダーシップを身につける

なお、20単位を修得すると修了証書が授与され、就職活動においても、専門分野以外でも幅広く学んできたことを第二の強みとしてアピールできるようになります。

令和5年度の「Business Field Linkage」開講・受講状況は以下のとおりです。

	開講件数	履修者数
春学期	7 件	284 名
秋学期	12 件	175 名
合計	19 件	459 名

(2) 教学マネジメントの推進による学習者目線の改善・改革（内部質保証）

本学独自の自己点検・評価基準に基づく各学科の点検・評価により、意識調査等の分析結果や学生からのヒアリング結果から学習者のニーズや期待を丁寧に汲み取り、そこから得られる課題に正面から向き合い、学習者目線の改善・改革を推進しました。

(3) 学習成果の可視化と明確化に向けた取り組み

令和5年度より新たに、学生の「卒業認定・学位授与の方針」に定める学習成果の獲得状況を明らかにするため、同方針の各項目とその獲得状況を評価する手法を紐づけ整理した「学習成果の修得状況を測る手法と時期」を教育課程に掲載しました。各学科では、これらに記載されたルーブリックや調査等を通じ、学生自身が自己の学習成果の獲得状況を理解・認識するとともに、自らの言葉で言語化する取り組みが進んでいます。また、学生の学習成果の獲得状況を客観的数値とともに、学科としての教育成果として社会に公表する取り組みも進みつつあります。

(4) 各学部・学科の特色ある学びの推進

各学部・学科では、次のとおり専門性を活かした特色ある学びを推進しました。

教育学部 児童学科

「幼児教育指導法開発領域」、「医療保育領域」の新設

「保育の聖徳®」の伝統を基礎とした「専門教育」と聖徳ならではの「人間教育」に裏打ちされた現場対応力を身につけた、幼児教育・保育におけるプロフェッショナル・リーダーの育成に取り組みました。

医療の知識を持った保育士ニーズの高まりに応え、令和7年度より「医療保育コース」を開設します。

教育学部 教育学科

教職課程の共同開設の検討

中高の教員免許の取得も可能な教職課程の共同開設の検討を進めました。また、在学生への中高免許取得増のため、1、2年生を対象としたガイダンスの実施や、履修上の時間割の配慮を行いました。

心理・福祉学部 心理学科

日本を代表する「心理学のフィールド学習」の推進

社会の諸分野の現場に飛び込み、実際に生じている課題や問題解決に取り組む「フィールド学習」の推進を図りました。令和6年1月28日には、「フィールド学習」科目を通じてDV（ドメスティック・バイオレンス）について学ぶ学生が、千葉県男女共同参画フェスティバルに参加し、ワークショップを出展しました。

心理・福祉学部 社会福祉学科

ベトナム及び企業との連携による介護福祉士養成事業

ベトナムの工科テクノロジー・技術短期大学と学術・教育連携に関する協定を締結し、令和7年度からの留学生受け入れ準備を進めました。

文学部 文学科

日本一楽しく学び、就職に強い文学部としての学びの推進

日本一楽しく学ぶ体験型授業「RE科目」の文学部として、総合型文学部（専門6コース500科目開講）の学びと、日本一就職に強い文学部の就職支援プログラムを推進しました。また、令和6年度からの新コース「国際文化コミュニケーションコース」始動に向け、体験型授業の上級編となる「プレミアムRE科目」の開講にも取り組みました。

人間栄養学部 人間栄養学科

6領域創設による管理栄養士資格取得後のキャリアパスの明確化

「医療・栄養」、「食品ビジネス」、「教員養成」、「健康指導」、「スポーツ栄養」、「総合（研究・社会貢献）」の6領域を柱とした教育を行い、管理栄養士資格取得後のキャリアパス明確化による学生の学びと国家試験合格へのモチベーション向上に取り組みました。

看護学部 看護学科

『先駆的』シミュレーション教育の推進

最先端の高機能シミュレーターを活用した「看護実践シミュレーション」による、段階的なシミュレーショントレーニングを取り入れ、看護実践能力を育成する教育の実践を進めました。

音楽学部 音楽学科

時代のニーズを捉えたDTM分野への進出

DTM (Desk Top Music の略) 分野へ参入し、音楽学部主催のDTM甲子園を開催し、多数の応募を賜りました。11月の聖徳祭で入賞者への授賞式を行いました。

また、中国語のパンフレット作成や、夏期電子オルガン講習会やその他のイベントを通じてアジアでの知名度が向上し、留学生の入学につながりました。

短期大学部 保育科

新科目「保育表現創造演習」開始

ピアノや歌、造形や身体表現等の個別の基礎的技能を、総合的な表現の指導力として統合し、さらには創造する過程を体験的に学び実践力へと高める科目「保育表現創造演習Ⅰ・Ⅱ」が始まりました。「幼児と音楽表現A・B」、「幼児と造形」、「幼児と身体表現」、「音楽表現Ⅰ」、「造形表現」からの連続性を明確にし、それぞれの科目担当教員が、協働して新設科目の指導にあたりました。

短期大学部 総合文化学科

専門教育×教養教育×BFLによる短大と大学の枠を超えた新しい学びの創出

専門教育科目（即戦力となる力を実践的に修得）×教養科目（多様な教養科目で基盤となる人間力を高める）×Business Field Linkage（自分の将来を見据えた学びを主体的・計画的にデザインできる5つの副専攻プログラム）による学びの再構築により、短大と大学の枠を超えた新しい学びと専門をより深める多様かつ実践的な学び作りに取り組みしました。

大学 通信教育

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率日本トップクラスの継続

教員による手厚いサポートや、国家試験対策講座や模擬試験の実施などを通じて、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の合格率日本トップクラスを継続しました。令和4年度・令和5年度実績は以下のとおりです。

	令和4年度	令和5年度
精神保健福祉士	79.3%（4位）	75.9%（3位）
社会福祉士	69.8%（1位）	78.1%（5位）

（ ）内は、通信制・新卒の順位

（5）教育・研究の向上

各教員の研究成果である著書、学術論文等の研究業績等の発表を推奨し、教育・研究の

充実を図り、より質の高い教育の実現と競争的研究資金等の獲得を目指しました。その結果、令和6年度科学研究費助成事業（科研費）に新規31件応募し、10件採択されました。

（6）キャリア支援の充実

① 2年連続全国女子大学1位の実就職率の維持・向上

個々の学生の状況に応じたきめ細かな就職指導を行うための個別プログラムを整備し、早期の就職活動への取り組みを推進するとともに、既存のプログラムについてもレベルアップを図り、キャリア支援を更に充実させています。令和5年度の実就職は97.4%と、令和4年度に3年連続で全国女子大学ランキングにおいて第1位（大学通信調べ）になった97.5%と同水準の結果を継続しました。また、幼稚園教員、保育士の採用者数でも全国トップクラスの実績を残しています。

② ダイバーシティ推進企業への就職推進

キャリア教育やBusiness Field Linkageの中にダイバーシティの学びを取り入れ、ダイバーシティ推進企業への就職率を向上させています。令和5年度は企業就職者の20.5%がくるみん（子育てサポート企業）、えるぼし（女性活躍推進企業）認定企業に就職しました。

（7）中途退学者予防策の推進

各種アンケート調査や学生への直接のヒアリング、アセスメント結果、自己点検・評価等の結果に基づき、学科の教員が一丸となった早期対応の徹底、事務局学生部各部門による横断的な退学防止に向けた取り組みを推進しました。その結果、令和5年度の退学率は、初年次で大学2.9%、短大6.2%、卒業までの4年間（2年間）で大学7.1%、短大9.5%となり、短大は目標とする初年度3.0%、卒業まで8.0%を若干上回りましたが、大学においては目標を達成しました。今後もより一層、退学防止の取り組みを強化していきます。

【地域・社会貢献】

（1）地域の活性化と人材の養成

① 高校生の体験発表会の開催

第8回「高校生の体験発表会」（主催：聖徳大学／後援：千葉県教育委員会・千葉県高等学校長協会・千葉県特別支援学校長会・松戸市・松戸市教育委員会・松戸商工会議所）を「ステージ発表型」は令和5年11月11日（土）、「オンライン発表型」は同年12月16日（土）に開催しました。ステージ発表型には高等学校21校23団体、オンライン発表型には10校10団体と多くの高等学校よりご参加いただきました。

② 高等学校、地方自治体、企業等との連携

地域コミュニティづくりや地域社会の発展のため、地方自治体、高等学校、企業等と連携し、地域貢献活動に取り組みました。今年度は松戸商工会議所とのコラボ企画として、11月3日に本学学生がプロデュースし、飲食をしながら音楽を楽しむ空間をコ

ンセプトにした「街角カフェ」を開催したり、UR 都市機構との連携事業として「ときわだいら ぽかぽかひろば」（子ども服の交換会、あそびのひろば）、「古本まつり」などを実施したりしました。

（２）生涯学習による社会貢献・地域振興

生涯学習事業として、地域社会の皆様に学びの場と機会を提供するための公開講座、社会人向けの資格取得講習・現職者向けの免許取得講座を開講しました。前者は、どなたでも受講可能な「聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）公開講座」で、開設 32 年目となる令和 5 年度は、延べ 528 講座を開講、延べ受講者数は 6,084 名でした。地方自治体との地域連携講座は好評で、今年度は流山市協力講座を新たに開講しました。後者は、司書・司書補講座（受講者数 151 名）、免許法認定公開講座（延べ 620 名）で、ここ数年では最も多い方々が全国より受講しました。生涯学習事業の発展に取り組むと同時に、地域社会やスキルアップ希望者に必要とされる存在として、その責務を果たしてまいります。

（３）子育て支援

１）「おやこ DE 広場 にこにこキッズ」

「おやこ DE 広場 にこにこキッズ」は、聖徳大学児童学研究所が松戸市より委託を受け運営している施設です。市内に居住する 0 歳から 3 歳の乳幼児とその保護者を対象に、遊びや交流、友達づくりの場として、また専門の教職員に気軽に子育て相談ができる場として、市民の子育てを支援しました。

開設日数	新規登録組数	延べ利用組数	延べ利用者数		
			計	大人	子ども
186 日	194 組	1,374 組	3,009 人	1,419 人	1,590 人

２）松戸子育てカレッジ

子育て広場「おやこで“ゆるりん”」

子育て広場「おやこで“ゆるりん”」は、地域の乳幼児をもつ親とその子どもが集い、安心して過ごせる親子交流の場です。

また、児童学科、保育科の学生のフィードバック先として、大学内に親子とかかわりを持てる子育て支援実践の場としての役割もあります。

開館日数	利用者数 (0～2 歳児)
65 日	89 人

(4)「知」の還元

① 教育委員会との連携

千葉県教育委員会が抱える課題の一つである、教員経験を一定年度積んだ中堅層が豊富でなく、管理職希望者が減少傾向にあります。この課題への対応として、聖徳大学大学院教職研究科が、千葉県教育委員会と連携して管理職養成プログラムを構成し、プログラム修了者については、教頭選考の一次免除に関する内容が、令和6年度千葉県公立学校校長・教頭選考実施要項に示されることになり、令和5年9月11日に覚書を交わしました。

② 所蔵する貴重資料の公開

聖徳博物館、利根山光人記念ギャラリー、企画展示ギャラリーを会場として、聖徳大学が所蔵する貴重資料を公開しています。また、企画展示ギャラリーのちりめん本展を皮切りに、聖徳学園90周年を記念した展覧会を順次開催しました。

(聖徳博物館)

- ◆ 特別展覧会 聖徳学園創立90周年記念「聖徳学園所蔵名品展」

会期：令和5年4月1日（土）～令和5年11月30日（木）

(聖徳大学三田キャンパス3階ラウンジ)

- ◆ 聖徳学園創立90周年記念特別展示 『冰山ルリの大航海』出版25周年記念「飛鳥 童 絵本原画の世界」

会期：令和5年9月23日（土・祝）～10月9日（月・祝）

(利根山光人記念ギャラリー)

- ◆ 特別展覧会 聖徳学園創立90周年記念「飛鳥童が描く 海の生き物たち」

会期：令和5年3月13日（月）～ 令和5年5月31日（水）

- ◆ 特別展覧会 聖徳学園創立90周年記念「モーツァルトの自筆譜（複製）と著名作曲家たちの自筆書簡」

会期：[前期] 令和5年9月9日（土）～令和5年11月4日（土）

[後期] 令和6年1月9日（火）～令和6年3月16日（土）

(企画展示ギャラリー)

- ◆ 特別展覧会 聖徳学園創立90周年記念「ちりめん本 ― 明治期に海を渡った日本の昔噺 ―」

会期：令和4年12月19日（月）～令和5年6月10日（土）

◆ 特別展覧会 聖徳学園創立 90 周年記念「日本近代作家の自筆原稿」

会期：令和 5 年 7 月 10 日（月）～令和 6 年 1 月 27 日（土）

③ 講演会、シンポジウム等の開催

研究所等の主催による講演会、シンポジウム等を開催し、広く社会に最新の情報や研究成果の還元を行いました。以下は研究所主催による令和 5 年度の講演会、シンポジウム、課題別研究会の実績です。

研究所	種別	タイトル	日時	参加者数
児童学研究所	講演会	自閉症児の行動特性と教師の指導の在り方—小 3 男児の転落事故の判例を素材に—	6/17（土）	100 名
	シンポジウム	現代人形劇の 100 年—子どものための人形劇・保育の場での人形劇— ※言語文化研究所共催	9/9（土）	44 名
	講演会	アジア・アフリカの児童と危機管理活動—SDGs のすべての課題を有する国々で—	12/9（土）	34 名
	研究会	令和 5 年度 児童学研究会	3/16（土）	70 名
言語文化研究所	公開講演会	読む・歌う・説く・唱える—中世唱導僧の世界	7/15（土）	28 名
	シンポジウム	現代人形劇の 100 年—子どものための人形劇・保育の場での人形劇— ※児童学研究所共催	9/9（土）	44 名
	シンポジウム	言語圏別に見た意味論的な「迷信・俗信」の考察	3/23（土）	11 名
生涯学習研究所	企画	常盤平 ぽかぽかひろば 子ども服の交換会・あそびのひろば	7/16（日）	96 名
	企画	あそびの駄菓子屋くまさん	8/5、9/16、 10/15、12/3	161 名
	企画	アートパーク 16 ニューワールド 爆誕	9/10（日）	1,220 名
	企画	大学探検！聖徳の自然でネイチャーゲームを楽しもう！	12/9（土）	20 名

	課題別研究会	本でつながる人とまち～志津ビブリオが目指す地域共生社会～	1/13（土）	21 名
	課題別研究会	ベビーカー利用者、車いす利用者、障がい者などのバス乗降体験と意見交換会	2/22（木）	24 名
	課題別研究会	エノモトさんと語る ～これからの松戸・まちづくりの未来～	3/2（土）	13 名
	課題別研究会	高齢者支援を考える part11 ～地域で幸せに生きるとは～	3/4（月）	16 名
看護学 研究所	シンポジウム	コロナ禍を乗り越えてあらためて問う「生きる」ということー生きづらさを抱える若者への支援からー	12/16（土）	38 名
	講演会	脳神経疾患を抱える人とご家族の Well-being を支える～専門看護師の役割と実践～	2/3（土）	17 名
心理教育 相談所	講演会	教員のための心理学講座 子どもが学びやすい教育環境について考えるー環境心理学の立場から	7/29（土）	42 名
	研修会	知能検査 WISC-V の理論と検査方法	12/9（土）	30 名
	講演会	病気と見た目とこころの問題	2/10（土）	34 名

【管理運営】

《学生募集》

（１）オープンキャンパスへの来場促進

来場型オープンキャンパスの他に WEB オープンキャンパスとして、WEB 上でオープンキャンパスを体験できるページを運用し、動画による学部学科紹介、WEB キャンパスツアーなどを通じて、来場型オープンキャンパスへの来場を促進しました。また、受験生目線の受験生応援サイトや、各学科サイトを運用し、タイムリーな情報発信を行い、オープンキャンパスへの来場を促進しました。

（２）ホームページの充実

本学独自の多様性のある深い学びの内容を受験生等に分かりやすく伝えるため、内容の充実を図りました。動画によるキャンパス紹介や学部・学科紹介のコンテンツをより一層充実させ、受験生の興味の継続・深化を図りました。

《基盤整備》

（３）高等教育の修学支援新制度への対応

令和２年度から施行された「大学等における修学の支援に関する法律」に基づく、「高等教育の修学支援新制度」に相当する支援を行いました。

【環境配慮】

（１）環境美化活動の実施

松戸キャンパス及びその周辺の環境美化活動として、学生、教職員及び清掃会社が協働で、大学内の中庭や周辺通学路の清掃を行いました。この活動を通じて、周辺地域を含めた綺麗なキャンパスづくりを目指すとともに、環境に対する意識の向上に取り組みました。

3. 聖徳大学幼児教育専門学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 「保育体験プログラム」の実施

令和5年度には26回の授業と実践を展開しました。実習後の学生からのアンケートでは、幼稚園実習Ⅰの前に十分幼児と関わったり、幼稚園現場で、教員の幼児との関わる姿を見たりしたことで、安心して実習を受けられたという感想があり、満足度は100%でした。

「この授業で、保育者になるというモチベーションが高まった」など学生から好評を得ました。対応力、応用力、協働性を身に付け、実践力を備えた学生を育成して、教育の質の向上をさらに目指していきます。

(2) 学生の学びの可視化促進

新校舎移転に伴い、学生の登下校、各授業の出席確認をスマホアプリ Myid（マイディ）を使用して登録するシステムや Google Classroom を導入し、学習の記録をリアルタイムで確認できるようになりました。また、学生が自らの成長を把握するものとして、実習における自己評価ループリックを使用し、実習ごとに記入することで2年間および3年間で保育者を目指す自身の成長を可視化できるようにしていきます。

(3) 授業アンケート中間期調査の改善

期末調査の他に実施している中間期調査は、Forms を使用してオンラインでとることで回収率を上げ、質問項目に縛られない、より自由かつ率直な学生の回答を集め、結果の詳細を教員会で共有してきました。兼任教員にも概要を伝達し、改善できることは即座に改善し、各学期残りの授業に反映させやすい方法を定着させました。期末調査については学生からの回答率を上げるため、オンラインから紙媒体による調査方法に切り替え、回答率の回復を実現しました。年度末にはFD研修報告会を実施し、全専任教員がアンケートの結果も踏まえて授業改善報告を行ったことにより、本校の教育状況把握と次年度の課題共有を行いました。

(4) 教育の質を高める研修の活性化

内部研修では上記の通りFD報告会を開催し、今年度から導入した Google Classroom を授業で効果的に使用方法についても活発な教員間の意見交換を行いました。また、研修テーマを教員会や各部会から広く募り、学生および教員のニーズに合わせた研修をその都度柔軟に実施しました。

教員の外部研修参加を促進し、その報告を教員会で定期的に行うことにより、最新の知見を共有し共通の発見等を促すことで、授業および学生対応に活用できるように取り組みました。令和5年度は計14件の報告がありました。

(5) 会議の効率化

隔週の教員会および月一回の部会を開くとともに、日常的に Teams を活用して、各部会の議事録や検討事項を提示することで、迅速な情報共有が可能になり、業務効率化を図

りました。

(6) 在校生・卒業生から愛される学校へ

卒業生の活躍を在校生に伝えることで卒業後の幼児教育者・保育者としての将来像の意識を持つことをねらいとして、SFD（聖徳フレッシュアップディ）において、卒業生の講演を行いました。この講演は、聖徳出身としての誇りと幼児教育者・保育者になる気持ちを高めるきっかけとなっています。さらにキャリア支援を含め、在校生が学ぶ『専門知識』と『実践的スキル』の機会を増やすことで満足度を高めていきます。また、卒業生に対して卒業後のフォローアップ研修を実施し、卒業生への保育者としての質の向上を図りました。

《就職の向上》

(7) 就職サポート体制の強化

1部生は1年次、2部生は2年次からキャリア教育を開始し、個別面談を通して学生一人ひとりの進路希望を把握し、個々のニーズに合わせた就職活動支援を行いました。公務員試験対策は全教員で分担し、論文指導、面接指導、集団討論の練習など個別に対応しました。その結果、5名が公立保育士に合格しました。

【地域・社会貢献】

(1) 行政、地域との関係強化

中学生・高校生を本校に招き、幼児教育・保育の道を志す重要性や喜びを伝え、保育者という職業をより一層理解してもらう機会を提供しました。今後も引き続き、近隣あるいは遠方の学校から寄せられる教育支援の依頼に応え、保育者養成校としての特色を生かしたアドバイスと支援を行っていきます。

【管理運営】

《学生募集》

(1) ステークホルダーから共感される学校へ

オープンキャンパス、高校訪問、進路ガイダンスを主軸に据え、入学者確保に向け教職員が一丸となり、本校の特色をアピールしました。新校舎に合わせてパンフレットや学校説明スライドを一新し、附属幼稚園と連携できるからこそ実現した「保育体験プログラム」を強調して広く紹介しました。令和5年度は、例年行われる保育専門学校フェアに加え、「保育の聖徳フェスタ」を聖徳大学・聖徳大学短期大学部と合同で、本校を会場として初めて開催しました。

《基盤整備》

(2) 業務削減にむけた効率化

新校舎の運用に合わせ業務を改めて洗い出し、重複作業の削除、効率化を意識できるよう転換を図り業務削減に努めました。Google Classroomを導入したことにより、時間短縮、ペーパーレス、教職員間の共有フォルダ活用による作業効率化を図りました。

(3) 業務基盤の検討

Teams や今年度から導入した Google Classroom を使用し、共通の資料をファイルに置くことで周知漏れ、紙および時間の削減に努めました。また、Teams のチャット機能を使用することで、情報交換が頻繁になり、情報の共有化が遅延なく進めることができました。

【環境配慮】

(1) 環境を意識した教育・危機管理ができる人材の育成

地震、火災など、様々な状況を想定して避難訓練を実施しました。また、危機管理日を設け、外部講師をお招きして上級救命講習・防犯教室・消費者問題講習・租税教室等を行うとともに、いざという時に行動できるようにするために教職員全員で AED の講習会を受講しました。

4. 光英 VERITAS 中学校・高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）「探究的な学び」を柱にした学習による 21 世紀型スキルを身につけた生徒の育成

学びの核となる「探究科」（全校履修科目）と「探究型授業」によって「答えを求める学びから問いを持つ学びへ」と学びの質の転換を加速させ、生徒が主体的に学び自らの力で新しい知識を創造する 21 世紀型スキルを獲得できるよう取り組みました。高校 2 年生の「探究科」での研究成果が、全国探究コンテスト 2023（ベネッセ主催、困りごと解決部門）において入賞（全国 1300 組応募の中で 10 組）をしました。

（２）英語・国際理解教育の充実による多様な価値観と豊かな表現力を持つ生徒の育成

小笠原流礼法の学びを軸とする日本文化理解と英語 4 技能および総合的な言語運用能力の獲得によって、グローバルな視野と多様な価値観を持ち自分の考えを自分らしく豊かに表現できる生徒の育成に努めました。

英語・グローバル教育では、英語の授業と校内外の行事（校内英語劇、海外語学研修、修学旅行等）を密接に連携させ相乗的に総合的な英語力の向上を図りました。台湾の弘文高級中学と姉妹校の協定を締結（10 月）したほか、CENPAKA INTERNATIONAL SCHOOL（マレーシア）との交流、早稲田大学異文化交流センターとの連携（様々な国からの留学生との交流等）、万華中学（台湾）とのペンパル交流等により、ユネスコスクールキャンディデート校（8 月に承認）として学びを地球規模に広げる取り組みを実践しました。

（３）理数教育の充実による理数の知識・技能を活用できる未来の科学者の育成

実験データを活用することで仮説を検証し研究論文を執筆できる「未来の科学者」を育成していきます。そのために課題解決のプロセスを重視した探究型の理数学習に取り組み、知識・技能を着実に定着させるとともに思考力・判断力・表現力の養成に努めました。放課後には、全校生徒が参加できる科学実験をはじめとする理数体験プログラム「だれでもサイエンス」を開催し理数教育の拡大と充実を図りました。

連携協定を締結している東京理科大学からは、校内の学校評価委員会において、生徒に必要とされる資質・能力について等の様々なアドバイスをもらいました。

（４）ICT 活用によるアクティブ・ラーニングでの効果的・効率的な学びの促進

タブレット（iPad）を始めとする ICT 機器の活用を効果的・効率的に学習に取り入れ、21 世紀型スキルの獲得をより促進できるよう取り組みました。その活用では、様々な学習アプリにより一人ひとりに最適な学びを提供するとともに、オンラインで学校外の人たちとつながることを含めた協働学習により、ダイバーシティを獲得しコミュニケーションスキル（対話力）を高められるよう努めました。「ひとづくり」を大切にテクノロジー利用を心がけ、他者への思いやりを持ちながら ICT 活用なしでは実現できない創造的な表現力を育成できるよう、校内外に発表する機会（校内探究研究発表会（9 月、3 月）、聖徳大学主催高校生の体験発表会（11 月）等）を積極的に創出しました。

《進学の上》

（５）探究を生かした質の高い進路実現

探究的な学びによって獲得される主体性やチャレンジ力を生かして、先を見据え自ら高みを目指し進路実現のため継続的に努力できる生徒の育成に取り組みました。進路マップや進路ループリックによる目標の可視化によって生徒自身が見通しを立てて進路実現のために学びやすくするとともに、デジタルポートフォリオ（活動成果等を蓄積する電子ファイル）に諸活動の成果を蓄積しふりかえり活動を行うことで自己省察力を高め、大学で学ぶ意欲を進学の動機とする良質な進路実現のための指導に努めました。

（６）大学入試に対応する総合的な取り組み

これからの入試で求められる学力の３要素を獲得するため探究的な学びを軸とした教育計画を整備するとともに、多様な入試に対応する進路指導についての継続的な研究と授業の質向上に資する大学入試問題分析を含む教員研修の強化を図りました。放課後に毎日開設する自習室（学生チューターによる学習・進路指導サポートを主とする学びのシステム）とスタディサプリ（個別学習アプリ）および校内で実施する全国模試の連携強化で、主体的な学習態度の育成と具体的な成績伸長を図り、生徒が確かな学力で高みを目指し良質な進路実現ができるよう総合的な取り組みを実践しました。

【地域・社会貢献】

（１）地域における教育的価値の向上

教育活動で地域に貢献するとともに光英 VERITAS 中高の教育的価値を高める取り組みを実施しました。

① 光英 VERITAS 中高主催のコンテスト等開催

地域の中学生対象の英語コンテストを 10 月に開催しました。松戸市、船橋市、柏市、流山市から 13 校 23 名の生徒が参加しました。

② 光英 VERITAS 中高主催の教育研修会開催

地域（松戸市、船橋市、市川市、柏市）の小中学校教員対象の、探究、英語および ICT をテーマにした教育研修会を開催（6 月、11 月）しました。

（２）地域・社会貢献

地域の活性化および社会に対する貢献ができるよう、教育活動および生徒活動を実施しました。

① 地域行事への積極参加と地域貢献

地域に貢献し地域から親しまれる学校づくりを目指し、全校生徒で学校周辺地域の環境ボランティア（清掃活動）に取り組みました（4 月、9 月）。また、松戸高校生講座（8 月）、松戸まつりのオープニングセレモニー（10 月）等の地域行事に参加しました。今後も地域に貢献し地域から親しまれる学校づくりに取り組んでいきます。

② 企業との連携による社会貢献

生徒会組織の各種委員会が、SDGs に貢献する企業と連携した活動を行いました。自然

環境の保全、途上国に対する支援、健康と福祉の増進等に向けての取り組みを通して、生徒の倫理観と社会貢献に対する意識を高め、「人・社会・自然に貢献する自覚と実践力のある次世代リーダー」を育成する学校として、企業と連携し実際の社会貢献活動を実践しました。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）教育活動と募集活動を一体化させた募集活動の徹底

学校説明会やオープンスクール等を学事計画（教育計画）に組み込んで「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とできるようにし、教育活動と募集活動を一体化させ、教育の質を継続的に高めることで入学生徒をより増加させるよう取り組みました。受験生データの分析から入試制度（しくみ、実施方法、日程等）を構築するとともに、重点募集地域からの目標入学生徒数を明確にする等の入試・募集活動を行い、光英 VERITAS 中高の募集定員充足に努めました。

（２）ホームページ等での学習成果等の発信によるブランドイメージ作り

光英 VERITAS 中高として「探究」、「英語」、「理数」「iPad」「小笠原流礼法」を主とした学習活動や学習成果をホームページから発信することで「ひとづくり」を根幹としながら「人・社会・自然に貢献できる次世代リーダーを育成する学校」のイメージを構築し、学校説明会等への来校者増につなげる取り組みを実施しました。また、同様に SNS、E メール、DM を活用した情報発信により、学校説明会等への来校者増加と学校のブランドイメージ構築に努めました。

（３）教育力を訴求力とする学校説明会等の開催

光英 VERITAS 中高の教育力の高さを訴求する学校説明会等を開催しました。

- ・生徒の学習活動（探究科における研究発表、英語スピーチ等）、生徒が取り組んだ学習の成果物（探究発表ポスター等）等を見せ「生徒の成長の姿」、「生徒の学習成果」を受験希望者に対する訴求力とする学校説明会を開催しました。
- ・受験希望者に対し「探究学習体験講座」（中学校 6 回、高等学校 3 回）「部活体験講座」（中学、高校とも 4 回）を実施しました。
- ・生徒主体の企画（来校者への歓迎プレゼンテーション、校内案内等）を盛り込んだ学校説明会等を実施しました。

《基盤整備》

（４）野球部活動環境の整備

男子生徒募集に貢献度の高い硬式野球部が創部 3 年目の活動を行い、夏の甲子園予選千葉県大会においてベスト 16 に入る躍進を見せました。令和 6 年度は 94 名（マネージャー 4 名を含む）の大人数で活動を始めることになり、運営に必要な施設・設備（散水設備、防球ネット等）の整備も進めています。

(5) 業務改善による教育力の向上

働き方改革を推進し、法令で取得すべき日数が定められた有給休暇の確実な取得や勤務時間内での業務完了に努めました。経費の削減をするとともに、業務効率の向上により教育の質を高められるように環境を整備しました。

【環境配慮】

(1) 教育課程上に位置づけた環境教育の実施

探究科の学習計画の中に SDGs に関連した環境テーマの内容を組み込み、多面的に環境について考えられる生徒の育成を実践しました。また生徒会の各種委員会でも SDGs（環境問題）に貢献する活動を実施し、自然環境に配慮できる学校づくりに取り組みました。

(2) エネルギー等の削減

教職員に対しての指針であり、かつ、生徒に心がけてもらいたいことを教員から伝えていくための指針である「節約のための行動指針」を作成しています。環境に配慮し、エネルギー等の削減による CO2 排出量減を推進しています（令和 5 年度における生徒 1 人あたりのエネルギー等使用量の前年度比：電気 82.5%、ガス 89.8%、水道（上水）85.4%、灯油 83.1%、紙 89.3%）。

5. 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 「聖徳プロジェクト」の推進

「聖徳プロジェクト」では、総合的な探究の時間、ホームルーム活動、進路探究を活用して、探究に必要なスキルを学び、地域社会や聖徳大学・東京学芸大学との連携を深めるなど、豊富な探究の機会を提供し、生徒の探究力を育成しました。

学びの成果は様々な場で発信されています。令和5年11月11日（土）に開催された聖徳大学主催「第8回 高校生の体験発表会」には、6年生（高校3年生）が参加し、最優秀賞に当たる「聖徳大学長賞」を受賞しました。



第8回 高校生の体験発表会 「聖徳大学長賞（最優秀賞）」

また、放課後や休日を利用してSDGsの探究的な学びをものづくりに繋げている「ひまわりプロジェクト」の活動は、学校近くの遊休農地で無農薬栽培をしたひまわりの種から圧搾したオイルを配合した天然素材の化粧品作りに挑戦しました。完成した保湿リップバーム『ひまわりリップ』は、取手市のふるさと納税返礼品に採択され、注目を浴びています。令和6年3月からは、茨城南青年会議所と連携し新たな商品の開発に取り組み、ひまわりの種子をペースト状に加工した「ジャンドゥーヤ」の商品化を進めています。「ひまわりプロジェクト」の活動は、地域のNPOや企業との連携やクラウドファンディングによる資金調達など社会と繋がり、広がりを見せています。

(2) 高大接続の研究・実践（研究でつながる高大一貫7年制プロジェクト）

本校の「聖徳プロジェクト」と聖徳大学が推進している「ゼミ活動～進化する学び」や「Business Field Linkage®」などを連携させ、高校入学から大学卒業までの「止まらない学び」を行う高大接続の研究と実践に取り組みました。

令和5年4月～7月に、聖徳大学「Business Field Linkage®」の「現代社会におけるビジネスリテラシー」を5年生（高校2年生）全員が受講しました。令和6年度は、5年生が「現代社会におけるビジネスリテラシー」を、6年生普通科の生徒が「就活にも役立つメディアリテラシー」を受講します。また、令和6年度に新設された「普通科児童保育コース」「普通科看護コース」は、聖徳大学教育学部児童学科・看護学部・短期大学部保育科・附属幼稚園との連携を密にし、幼高大連携した体験的な学びを推進し、課題解決に協働的に取り組むことができる将来の保育者・看護者を育成します。

（３）新しい評価「観点別評価」の実践と研修

新しい評価「観点別評価」について、評価検討委員会で評価方法・進捗状況を踏まえて評価をする上での課題を共有し、その課題をもとに教科横断的な研修会を行い、評価の質を高め、指導の充実を図りました。

（４）「学びの推進力」（12の力）を意識した授業実践

本校では「生涯にわたって自ら考え、学び続けることができる生徒（学び屋さん）の育成」を目指しています。学び屋さんに必要なとされる資質・能力を12に分類し、「学びの推進力」としました。本校では「学びの推進力」（12の力ー興味を持つ力・疑問を持つ力・実行力・自己調整力・創造力・情報活用力・読解力・表現力・自己理解力・自己開示力・傾聴力・協働性）の定着を意識した授業を実践し、授業アンケートの結果をもとに、指導の改善を図り、各教科の特性を活かし、効果的に資質・能力の育成を図りました。

（５）ICT環境の整備

① 一人一台以上の端末の実現

Microsoft teams の活用を促進し、校内ではBYOD（Bring Your Own Device・個人所有の端末活用）を進めてきました。令和5年度の入学生よりPCの購入を推奨し、年度末にはほぼ「一人1台」を実現しました。生徒たちは、スマートフォン・タブレット・PC等の端末を2台以上保有し、並行して活用する「一人N台」へと移行しつつあります。

② 常設のプロジェクターの整備

特別教室における常設のプロジェクターを設置や電子黒板の活用を整備し、日常的なICT活用を促進し、教員の指導スキルや生徒の学力向上に結びました。

② Microsoft 365 の活用の研究

「Microsoft Innovative Educator Experts（マイクロソフト認定 教育イノベーター）」に認定された教員を中心に、Microsoft Teamsをはじめとするアプリケーションの先進的な活用に挑戦し、ICT推進の先進校として教育活動全般の成果を外部発信しました。9月22日（金）に九州国際大学付属高等学校他2校によるICTに関する視察を受け入れ、ICT教育及び校務のDXについて、本校の取組を紹介すると共に、情報交換を行いました。新たなスキル等は校内の取り組みに活用するとともに、業務の効率化に繋がっています。

《個別最適化した進路実現》

（６）探究活動を通じた進路実現

「聖徳プロジェクト」を通して、系統的な進路指導を実践し、新大学入試に対応できる生徒を育成し、進路実現に結びました。全員が、総合型・学校推薦型選抜入試で進学を果たしました。

特に、探究活動を聖徳大学と連携をして推進することにより、聖徳大学への進学を促し、内部進学率の向上を図っています。また、聖徳大学入学センターとともに内部入試方法の研究に取り組み、「聖徳プロジェクト」の成果を活用した「探究活動発表方式型内部推

薦入試」を実現しました。

（７）個別最適化した学びで生徒一人ひとりの進路実現をサポート

「MY カリキュラム」と「聖徳プロジェクト」の推進により、生徒一人ひとりの進路に対応した個別最適化した学びを実現し、生涯学び続ける姿勢と資質・能力を備えた生徒を育成しました。また、探究的な学びの集大成として、「マイプロジェクト（卒業研究）」の成果を生徒全員が校内外でプレゼンテーションに取り組み、個々の進路実現に繋がりました。

「探究する学びと進路実現」については、卒業生の生の声を動画にまとめ、HP 上でも公開しています。

【地域・社会貢献】

（１）社会に開かれた学校づくり

取手市の教育委員会の要請により、市内の小学校 3 校の水泳の授業に延べ 15 日間本校のプールを貸し出しました。また、クラブチーム 5 団体 9 種目に体育館・グラウンド・プールを開放し、社会に開かれた学校づくりに取り組み、地域との信頼関係を更に強めました。

また、吹奏楽部は近隣地区の幼稚園・小学校・自治体から訪問演奏の依頼を受け、2023 年度は 5 回の演奏会を開催しています。2024 年 3 月 20 日（水祝）牛久市中央生涯学習センター文化ホールにて開催した「第 35 回 定期演奏会」には、1,200 名を超える方が来場されました。

他にも、箏曲部が取手市の賀詞交歓会で演奏したり、ダンス部・ボランティア部が取手市主催のイベントに参加したりと、地域と連携した活動を展開しています。

【管理運営】

《生徒募集》

（１）「聖徳ファン」層を拡大

本校の探究的な学び、手厚い進路指導、個性が生かせ、互いに認めあい、高めあう「新たな学校文化」と「礼法」「食育」の伝統的な「人間教育」、「大学附属」「女子校」の魅力を受験生や保護者に伝え、「安心して学べる学校」を PR し、「聖徳ファン」層の拡大に努めました。令和 5 年 5 月に発表した普通科の「児童保育コース」「看護コース」の新設に対しての反響は大きく、入学生 73 名の 34.2%が入学の動機に両コースの新設を挙げました。また、受験対策にとらわれずに学校生活を送り、自らの興味・関心を広げ様々なことにチャレンジする生徒の姿を伝え、偏差値だけに頼らない学校選びを広め、受験生・入学生増を目指しました。生徒募集関連のイベントでは、保護者後援会の方々による座談会や懇談会も好評で、在校生保護者から直接本校の魅力を伝えていただくことができました。

聖朋会（同窓会）子女・姉妹の入学者も多く、全入学者の 17.6%に上りました。

（２）音楽科・普通科吹奏楽コースを軸にした生徒募集の展開

茨城県、千葉県下唯一の私立音楽科併設校として、また吹奏楽部の実績をブランドイメージとして、茨城県南・西の人口増加地区・千葉県東葛地区・TX 沿線を中心に、音楽科及び普通科吹奏楽コースを軸にした生徒募集を展開し受験生増に繋げ、定員 10 名の入学者を確保しました。

（３）効果的な生徒募集イベントの企画と情報発信

新入生アンケートの結果や来校者の情報をもとに、本校の強みを抽出し、常に広報や募集イベントの改善に取り組みました。本校の良さが受験生・保護者に伝わるよう、効果的な生徒募集イベントを企画し、HP による動画配信、Facebook・Instagram・LINE 等と HP を連動させた広報展開を推進し、来校者増に繋がった結果、当初の目標であった接触者数は 289 名（目標達成率 100.3%）と目標を上回り、募集定員 70 名を上回る入学者を確保しました。

（４）茨城県南地区における光英 VERITAS 中学校・高等学校の生徒募集活動

茨城県南地区及び JR 常磐線・つくばエクスプレス沿線において、女子高として存続する本校の生徒募集活動と並行して、光英 VERITAS 中学校・高等学校の広報・生徒募集を展開し、受験生の増大・募集人員の充足を目指しました。

《基盤整備》

（５）目標達成に向けた協働の実現

授業をはじめとする教育活動の目標を適切に設定することと、それらに関わる情報を研修会や職員会議で共有することによって、学校目標の達成に向けた効果的な協働を図りました。

（６）ICT 化による業務の効率化

Microsoft teams を含む Office365 のサービスを活用し、教育活動の充実を図りました。校務運営委員会・職員会議等では、資料を teams で共有し、ペーパーレス化を推進すると共に、業務の効率化・経費節減に繋がっています。

保護者との連絡も全て teams にて実施しています。学校からのお知らせは即時性を担保し、保護者からの回答も forms を活用することによってダイレクトに集計することができます。

（７）警備の機械化による安全性強化及び業務効率化

警備を機械化し、校舎内点検及び施錠・安全管理へ教職員が積極的に関わり安全性を強化するとともに、安全管理業務の効率化に繋がっています。開錠は教頭が担当し、日直及び最終退勤者による見回りのタスクは forms にて管理しています。

【環境配慮】

（１）SDGs の学びの推進

教育活動全般で、持続可能な開発目標 SDGs の学びを推進し、地域環境の保全に努めました。ごみの分別の徹底、使用済みコンタクトレンズケースの回収など、生徒たちは身近な活動に主体的に取り組んでいます。

（２）ICT の活用によるペーパーレス化の推進

教育活動全般および校内での会議等においても、ICT の活用によるペーパーレス化を推進し、コスト削減を継続しています。

（３）エネルギー等の削減

教育活動で使用するエリアの最適化を図り、エネルギーコストの低減化を継続しています。

6. 聖徳大学附属小学校

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）新教育課程（新学習指導要領対応 道徳・英語・プログラミング）を上回る学力形成と人格形成の実現

新学習指導要領の完全実施のもと、毎週の「週案簿」提出による学習指導の実施状況の把握の徹底とカリキュラムの検討、評価表作成など、指導と評価の研究を進めました。新教育課程を上回る指導を実践する学校として、発展的な学習内容を計画的に取り入れ、中学受験に対応できる学力形成・人格形成に取り組みました。

（２）「思考力・判断力・表現力」向上に向けた学習指導・学級経営の実践

すべての教育活動において児童・保護者が満足できる学習指導・学級経営を進めていくため、新学習指導要領に示されている「何ができるようになるか」という点を意識し、特に「学習感想」や「振り返り」等、自分の考えをまとめ上げる学習活動に重点を置き、授業研究を通して、学校全体で児童の「思考力・判断力・表現力」の向上に努めました。

（３）ICT 活用による効果的・効率的な学びの促進

昨年度より、児童が一人一台タブレット端末を所有し、学習に活用していくための環境整備も整いました。学年の発達段階に合わせ、ICT 機器を効果的・効率的に学習に取り入れ学習成果に結びました。同時に、ICT 活用による創造的な表現力の育成に必要な指導スキル獲得のための教員研修を重ねました。

《進学の向上》

（４）光英 VERITAS 中学校との連携強化

光英 VERITAS 中高教員の専科授業における指導の導入により、児童自身の中高の魅力の実感を内部進学への意欲の向上に繋げていきました。また相互交流をさらに活性化させ、互いの利点を積極的に情報発信することにより、さらなる関係強化に取り組みました。

（５）未来の創り手となるために必要な資質・能力の育成と、中学受験で求められる学力の向上

将来への夢や希望をもち、中学受験に向けた心と頭を１年生から発達段階に応じて育てていくため、基礎学力の定着の自覚化と自信の向上につながる「漢字検定」、「算数検定」に合格できるよう日々の指導を徹底しました。合格率は、双方ともに94%を達成しました。令和5年度は、中学受験において、筑波大学附属駒場中、開成中、早稲田中、巣鴨中、芝中、渋谷教育学園幕張中、市川中、東邦大学付属東邦中、浦和明の星女子中を筆頭に、大変良好な結果を得ることができました。

（６）授業研究を通しての、聖徳大学との連携のさらなる深化と指導力の向上

研修部による年間計画を作成し、教員同士の相互評価を含め、経験年数に応じた授業研究の形を毎年工夫し、主要教科である国語と算数、そして、専科（音楽・図画工作・英語・礼法・体育）で実施することで、指導力の向上に努めました。

【地域・社会貢献】

（１）同窓会組織を活用した、児童・保護者への学びの場の提供

本校では、１９８９年度から現在までに、２３００名を超える卒業生が巣立っており、成人し、社会で活躍する卒業生が数多くいるため、卒業生から児童に向けての授業をキャリア教育の一環として実施する計画でしたが、感染症対策を鑑み、延期といたしました。今後は状況に応じ、保護者向けの学びの場も提供できるよう同窓会組織の活用を進めていきます。

【管理運営】

《児童募集》

（１）専願入学者数を増やすための入試・募集改革

説明会参加者へのアンケート調査・分析による広報戦略の改善、出願前のダイレクトメールや幼児教室訪問をタイムリーに重ねて行い、説明会参加者をこれまで以上に増加させ、出願につなげ、専願入学者を増やすよう努力を重ねました。その後のⅡ期以降の入試においても、幼児教室訪問や個別相談会、個別学校見学対応を重ねることで出願者増に向けて尽力しましたが、最終的な入学者は、昨年度より２６名少ない４９名となりました。

（２）入学したいと思える魅力的なイメージ戦略の強化

他校ではできない特色ある教育活動を取り上げ、他校との差別化、独自性を明確に打ち出し、募集活動の主軸にするとともに、児童たちの声や学習成果、「何ができるようになったのか」具体的な向上の姿や活動成果を可視化し、ホームページ内の最新トピックスや教員ブログ、そして、Facebook、Instagramの活用により、これまで以上にスピード感をもって、多数発信していき、入学したいと思える魅力的なイメージを作っていました。また、現在進行形の新鮮な情報発信に努めるだけでなく、その情報を見ていただく手立てとして、積極的な幼児教室訪問を重ね、出願へと繋げていきました。全教職員一丸となり、全員が広報部主任の気概を持って情報発信にあたり、令和５年度の更新回数は、７１６回にのぼりました。

（３）児童の学習活動の向上の可視化を強化した広報戦略

児童に対し、計画的に各種コンクールへの挑戦を促し、児童の意欲を喚起し、本校の特色あるカリキュラムによって身につけた力の成果の可視化としていきました。また、育成した表現力を校内外に積極的に発表する機会としました。令和５年度は、「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクールにおいて、３年連続、全国一の「最優秀校」を受賞することができました。多数の個人賞の受賞と併せて、受賞結果をホームページから迅速かつ効果的に発信し、学習成果の効果的な広報となりました。

（４）「聖徳アフタースクール」の充実

放課後の児童の預かり、及びアフタースクールの充実《選択制プログラムの（月）～（金）実施、及び、短縮授業期間、長期休業期間中の特別時間枠による実施》を図り、共働き

等、アフタースクールに必要感を持つ層への働きかけをさらに行いました。選択制プログラムの内容は、各教科学習の発展的内容であり、かつ、学習系と運動系の両面をバランスよく配置し、児童の知的好奇心を満足させるもの、潜在能力、無限の可能性を伸ばせるものを開発しました。新鮮な体験から生まれる感動、豊かな感性が意欲的な学びを引き出し、夢中になって取り組むことで、新たな自分自身の可能性に気づき、新たな学習意欲の芽吹きに繋がるよう構築しました。

【環境配慮】

（１）緑豊かな附属小学校の校地を活かした、環境への主体的な意識を高める指導の強化

本校には、他校との大きな差別化となる「小学校の教科書に掲載されたすべての樹木が植えてある緑豊かな校地・校庭」があり、日頃自然に親しむことが難しい児童たちにとって大変恵まれた環境であることから、この環境に触れ、学習活動に活かす機会を充実させてきました。低学年は生活科、高学年は理科の授業を通して学び、同時に環境への視点も育てました。環境教育の一環として、４年生を中心に「環境日記」に取り組みました。自分自身の省エネに対する具体的行動を１２週間にわたる日記にまとめることで、一人ひとりが自分自身のこととして環境問題に向き合う意識が高まりました。

「環境日記コンテスト」にも挑戦し、団体賞として「優秀賞」を、個人賞としても３名が受賞しました。その内の１名は、最高位の「金賞・外務大臣賞」を受賞しました。

（２）徹底した業務の効率化の実行

教職員間の連絡や情報管理・情報共有等、業務方法を紙配付からデジタル化へ移行し、決められた時間内に効率よく職務を遂行していくことで、紙の使用量や電気使用量を削減することによりエネルギーの節約につながる環境配慮に努めました。

7. 聖徳大学附属幼稚園・附属第二幼稚園・附属成田幼稚園・附属浦安幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 発達段階に応じた基本的な生活習慣の習得のサポート強化

これまでのデータ分析から得られた数値を捉え、より効果的な指導時期を設定し全教職員で集中的に指導にあたりました。

具体的には ①正しい箸の持ち方 ②誰にでも挨拶 の2点を軸に取り組みました。

①について附属幼稚園の達成率は86%となり、重点的に指導する園児には教師が隣に座るなど各教員が工夫して指導した結果、昨年度よりも向上しました。保護者の関心度に差があることを課題と捉え、保護者との面談の機会には具体的指導方法を伝え、今後は更に幼稚園と家庭が一貫した指導ができるようにしてまいります。

附属第二幼稚園は79%の達成率となりましたが、令和5年度はコロナ禍を経てようやく楽しい雰囲気の中で食事ができるようになったので年齢の低い学年は先ず偏食の改善や食事のマナーを身につけることに時間をかけました。箸使いについても、園児や保護者の意識を高められるよう、数値を定期的に公表することを検討していきます。

附属成田幼稚園の達成率は64%に留まりました。食事の時間が長くとれず十分な指導が出来なかった点を改善するため、今後食事(指導)の時間を長くとするための指導を行います。附属浦安幼稚園は達成率82%となり、今後とも保護者に降園時、面談等で家庭での指導法を伝え、次年度は90%達成を目指します。

②について附属幼稚園の達成率は76%となり、挨拶運動を中心に行う中で挨拶をする意味の理解や主体的な挨拶が難しい様子がありました。教職員が実践する姿が園児にとって最良の手本となるよう幼稚園全体の活気と士気を上げて取り組んでまいります。また、異年齢との関わりから気づきの機会を増やします。附属第二幼稚園、附属成田幼稚園も、自分から挨拶をすることが少しずつ習慣になってきている様子は見られるものの、挨拶の意味を理解していない姿も見られ、達成率は68%、64%でした。まず年長児に挨拶の意味を理解させ年長児を手本とさせることで、教師から教えられるのではなく年中年少の見本として行うことができるようにしていきます。附属浦安幼稚園の達成率も60%に留まり、決まった場所ではできるが、園児自身の理解や主体的な挨拶が難しい様子が見られましたので、年長児が中心となって他学年に広める指導を実践していきます。

(2) 幼児の可能性を引き出す「各園の重点取組」のカリキュラム展開

[聖徳大学附属幼稚園]

附属幼稚園では、本園の教育方針である「遊びを通した学び」の過程や効果は、保護者からは見えづらいということを認識し、七園合同研究保育で取り組みを始めた、ポートフォリオやドキュメンテーションによる「見える化」を念頭においた保育を本園の特徴的な教育として位置づけた上でカリキュラムに展開し、教育効果を高めることに取り組みました。令和5年度末の保護者アンケート調査では92.8%の保護者が幼稚園の活動を通して園児の成長を感じられたと回答しています。

[聖徳大学附属第二幼稚園・成田幼稚園]

附属第二幼稚園、附属成田幼稚園では園内の各遊びコーナーの環境を充実させ、幼児がより主体的かつ意欲的に活動を発展できる環境を整え、幼児の豊かな活動を引き出すためにカリキュラムに展開し、教育効果を高めることに取り組みました。令和5年度末の保護者アンケート調査ではおよそ9割の保護者が幼稚園の活動を通して園児の成長を感じられたと回答しています。

[聖徳大学附属浦安幼稚園]

附属浦安幼稚園でも体育的活動について研究保育の成果を踏まえ継続的に取り組むことにより教育効果を高めることに取り組みましたが、同上のアンケート調査では9割以上の保護者が幼稚園の活動を通して園児の成長を感じられたと回答しています。

《進学の向上》

(3) 附属小学校との連携強化

相互交流を更に活性化させ、互いの利点を積極的に情報発信することにより、Win-Winの関係強化に取り組みました。

内部進学説明会の実施や体験入学イベントの再構築のための連携を行い、また事務室も定期的な連携の機会を持ち、意見交換を行いました。

【地域・社会貢献】

(1) SEITOKU オープン キンダーワールド（親学・園庭開放）の強化

保護者ニーズの的確な把握や、実施内容の適切な設定と情報の発信により、地域における子育ての支援施設としての拠点化に取り組みました。

昨年度より土曜日の開催を大幅に増やす(附属成田幼稚園)、時節に合致したテーマを毎回工夫するなどして、昨年比133%の集客を達成しました。

今後も実施内容を更に充実させ、園庭開放から子育て支援へと活動を広げていきます。

(2) 預かり保育の強化

女性の就労率が更に上昇していく事を認識するとともに、幼児教育の無償化により増加が予想される共働き世帯を含めたすべての子どもに良質な幼児教育を提供するために、カリキュラムや運営方法の点検を実施するとともに、利便性の向上に取り組みました。

令和5年度末の保護者アンケート調査では四園とも9割以上の保護者が本園の預かり保育に満足していると回答しています。

【管理運営】

《園児募集》

(1) 新入園児の増加

安定的に質の高い幼児教育を提供するために、教育内容と教育効果の可視化により、経営基盤の更なる安定に取り組みました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い少しずつ行事を再開させ、人数制限についても緩和を進め歴史ある行事の重要性を再確認しながら、コロナ禍で学んだ利点は活かし園運営

に努めました。全園児が行事参加することで各行事の意義をあらためて見出せるよう保護者へ働きかけ、その効果の可視化に努めた結果、学年間での育ち合いが再び期待できるようになりました。

（２）保護者満足度の向上

経営基盤の安定のために最も重要な保護者の満足度向上に向けて、教育内容や教育環境の充実をはかるとともに、「れんらくアプリ」の活用拡大など、保護者の利便性を向上するためのサービスに努めました。

令和５年度末の保護者アンケート調査では四園とも９割以上の保護者が「れんらくアプリ」でのサービスに満足していると回答しています。

（３）給食による PR 活動の強化

「給食があるから」が本園を選んだ理由で第１位である現状を踏まえ、ホームページでの「本日の給食」の写真公開や試食会等を通して入園後の満足度の向上に努めるとともに、自園調理（聖徳大学附属幼稚園・第二幼稚園・成田幼稚園）と専任栄養士（四園）による他園との差別化、担任が個々の状況に合わせて配膳すること及び、年長児は役割当番として参加し、協調性を育成することのメリットを積極的に発信することにより、新入園児の募集に効果的につなげてまいりました。また、栄養指導、食事マナー、箸の使い方指導など、給食を通した食育にも積極的に取り組むとともに、昨今増加しているアレルギー児への対応にも引き続き取り組み、また大学三園とも連携し強化を図りました。

令和５年度末の保護者アンケート調査ではおよそ９割の保護者が給食に満足していると回答しています。

令和６年度より、附属幼稚園、附属第二幼稚園、附属浦安幼稚園にてこれまでは午前保育日であった水曜日も給食を開始し、四園全園にて月曜日から金曜日までの週５日完全給食を実施し、保護者満足度の更なる向上と入園者の増加につなげます。

（４）送迎バスによる PR 強化

今後少子化が進行していく中で、園児募集活動において通園バスは更に重要なツールとなっていくことを認識し、安全運行の徹底や利便性はもちろんのこと、将来的なニーズを的確に把握し、中期的な視野に立ったコース設定に取り組みました。

全てのバスに「園児降ろし忘れ防止装置」を設置し国の基準以上の防止措置を図りました。また、四園ともバスの小型化を完了し、これまで通行できなかったルートや園児の獲得が有望な地域へのコース開拓を行い、バスコースの改善と増設を行いました。

（５）２歳児保育（未就園児教室）の開始

〔聖徳大学附属幼稚園・第二幼稚園・成田幼稚園・浦安幼稚園〕

２歳児保育について保護者の負担が少ない未就園児教室（幼児ルーム）の需要が増えており、そのニーズに応え現行の満３歳児学級に加えて保護者同伴の２歳児保育に取り組み、新入園児の早期獲得を図りました。

附属幼稚園にて2クラスを開設し、新入園児数の増加につなげました。

《基盤整備》

（６）残業時間の削減

適正なワークライフバランスに向け、「れんらくアプリ」等 IT の活用を促進し、引き続き業務の効率化に取り組むとともに、業務内容の整理やアウトソーシングなどにより、教職員の家庭環境の変化にも対応できる労働環境の整備に取り組みました。また、実効的な残業時間削減と意識の向上を目的としたノー残業デーを実行しました。

（７）安定した経営のための運営形態の検討

〔成田幼稚園〕

共働き世帯の増加に伴う保育所ニーズの上昇により、認定こども園の新設や公立保育所の定員増が続き、市内の幼稚園はいずれも園児募集に苦戦を強いられています。認定こども園に移行する幼稚園も見られるようになる中、将来的に経営を安定させることができる運営形態を検討すべく、成田市による子ども子育て支援新制度に関する意見交換会・報告会に参加し、新制度の内容の再確認と情報共有を行いました。

【環境配慮】

（１）環境整備の徹底

環境負荷の軽減のみならず、園内の安全管理上の観点からも重要性を訴求し、教職員の環境保全への意識の向上に取り組みました。

令和5年度末の保護者アンケート調査では四園とも9割以上の保護者が教職員の園内外の安全面での留意に概ね満足していると回答しています。

（２）ペーパーレス化の推進

保護者への連絡は「れんらくアプリ」を通したペーパーレス化を更に推進しました。

令和5年度末の保護者アンケート調査では四園とも9割以上の保護者が「れんらくアプリ」でのサービスに満足していると回答しています。

（３）園児への環境教育の実施

環境教育の入り口として年長児による「環境見回り隊」に引き続き取り組み、節電、節水等省エネルギー化に園児とともに取り組みました。

8. 聖徳大学三田幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

（１）教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

年間指導計画の見直しを行い、保育室での遊具、素材を使った主体的な遊び、遊戯室での大型木製積み木を使った遊び、絵本の部屋では絵本の貸し出しを行うなど、異年齢の遊びや多様な活動を体験する教育を実施し、ブログ等で保護者に周知しました。また、行事についても見直しを行い、表現発表会では三田キャンパスの３階ホールでクラスごとの劇や楽器の活動を発表し、劇の内容、大道具、小道具などを自分たちで考える総合的な活動ができ、有意義な経験となりました。

（２）教員のスキルアップ

活動の具体的な方法について職員会議で検討し、実施後に全教員で振り返り、評価を行いました。また、預かり保育の在り方について講師を招いて研究協議を行い、長期の指導計画の作成を行い、保育の改善を図りました。さらに、施設・設備の安全について「ヒヤリハット」の調査を行い、医務日誌の分析とヒヤリハットの内容について研修を行いました。

（３）「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

園庭の自然を活用し、アゲハの幼虫の世話、夏野菜の栽培、オシロイバナやエノコログサなどを使った遊びなど、充実した自然体験活動ができました。広い園庭では、子ども達が思い切り走って遊ぶ姿や、遊具で歓声を上げて遊ぶ姿が見られ、環境を生かした保育活動は学校評価でも高く評価されました。

【地域・社会貢献】

（１）子育てパートナーの役割を担う幼稚園

保育参観の回数を増やしたほか、定期的に個人面談を行い、一人ひとりの幼児の理解を保護者と共有するようになってきました。また、年間を通して定期的に開催する未就園児教室を運営したほか、不特定の未就園児を対象にしたイベントである「ひろば」も開催しました。

（２）地域と交流している幼稚園

在園児の祖父母を招いて触れ合い参観日を設けて、友達の祖父母とも関わるなどの経験ができるようにしました。地域との関わりでは、近隣のオフィスビルの行事に参加しました。クリスマスソングの合唱と５歳児が描いた絵のプロジェクションマッピングが１週間放映されたほか、当日の様子はテレビで放映されたほか、全国紙の記事にも取り上げられました。

【管理運営】

《園児募集》

（１）子どもの成長が日々感じられる幼稚園

行事の他に、日常の遊びについてブログにアップし、その場面の教育的な意義について分かりやすく説明してきました。給食のメニューや映像をホームページにアップし、家庭の食事の参考になると好評です。

（２）就園前の幼児が楽しめる幼稚園

未就園児を対象にした「ひろば」の回数を増やし、遊びの内容を吟味して実施しました。毎回感想や次回の希望を聞く質問紙調査も行い、遊びの内容に反映させました。特に在園児と一緒に遊ぶ企画は大変好評で喜ばれました。

（３）未就園児教室への参加者の増加

未就園児教室は40名の定員いっぱいでした。途中で退会はありましたがおおむね1年間登園し、3歳児の入園につながっています。募集は定員を超える申し込みがありましたが、調整して全員入会しました。

《基盤整備》

（４）新型コロナウイルス感染症への対応

コロナ感染症の罹患はほぼなくなり、インフルエンザも数名程度でした。手洗いを奨励しましたが、マスクの着用は保護者に任せました。すべての行事を直接対面による開催とした。園児の誕生会などは園全体で集まるなど、活動も計画的に行い、発達を促す経験を確保した。

（５）業務の効率化とモチベーションの向上

園務分掌を見直し、業務の平準化を図るとともに、職員会議で企画案を協議して共通理解を図りました。事務の合理化、計画的実施を心掛け、残業時間の削減を目指しました。

【環境配慮】

（１）環境にやさしい活動をする幼稚園

エコキャップの回収先が回収不可になったため、環境教育としては「自然の大切さを知らせる」とともに、物を大切にすることを保育として日常的に指導しました。父母の会で衣類のリユースのためのバザーを行い、「古着ボックス」で海外にも送りました。また、港区私立幼稚園PTA連合会の活動の一環として、区内の施設にリサイクル用品を提供しました。

9. 聖徳大学八王子幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

日々の遊びや生活の中で、様々な体験を通じて、子ども一人ひとりが何を感じ、何に気づき、何がわかったか、何が出来るようになったかなど「学びに向かう力・人間性等」心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活が送れるよう一人ひとりに合った援助や言葉掛け、指導を繰り返し行ってきました。また、子どもが出来たこと、頑張ったことを十分に誉め認める保育を大切にしてきたことで何事にも自信をもって意欲的に取り組める子どもになりました。

(2) 教員のスキルアップ

今年度は教員のピアノ力を高める為、年間計画を立て、月1回全員の前で披露し合い、お互いが教え合い、励まし合いながら取り組んで参りました。結果、教員の自信につながり、曲のレパートリーが増え、一人ひとりの自信につながりました。また、姉妹園（多摩幼稚園）の教諭と、「子どもの自主性が育つような指導法や言葉掛けについて」学び合う機会を年間3回計画し行ってきました。教員が子どもを見る目が育ち、自身の保育の見直しました、外部の研修会にも参加し、スキルアップにつなげることができました。

(3) 「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

ここ数年コロナ禍で、子ども達の生活にも変化が見られ、体力の衰えで体調を崩しやすい子どもがでたり、朝からぼんやりしている子どもが見られたりしました。

「規則正しい生活」の見直しを各家庭でして頂くことが大切であることを知らせ、「睡眠」「運動」「食事」において、保護者の方にお手紙や参観、個人面談を通して大切さを知らせ、幼稚園と家庭とが同じ方向で指導が出来るよう促すことができ、欠席者の減少やお給食での残菜の減少につながり、子ども達の心身にもよい結果となりました。

【地域・社会貢献】

(1) 子育てパートナーの役割を担う幼稚園

大学・短大や専門学校、保健センターとの連携をとり、発達が気になる子どもの子育て相談・個別指導について、大学・短大の教員による子ども観察と保護者面談の指導を行いました。また、今年度より、八王子市子育て支援親子集いの広場ゆめきっずにて月1回の出前保育を行い、幼稚園のアピールと共に子育てパートナーの役割を担い、親子が楽しい時間が送れるように教員が制作や絵本・体操等工夫を凝らしました。

(2) 地域と交流している幼稚園

4年振りに地域の高齢者施設へ訪問し、高齢者とのふれあい(肩たたき、手遊び、うた遊び)を共に楽しんだり、プレゼント交換をしたりと、双方が共に有意義な時間を過ごすことができ、子ども達にとっても良い経験となりました。また、近隣の小学校との訪問・交流会を4年振りに実施し、園児は小学生のお兄さん、お姉さんに親切にいただき、小学校入学へ向けての期待が高まり、良い体験ができました。

【管理運営】

《園児募集》

（１）園児の成長が日々感じられる幼稚園

子どもが頑張ったこと、出来るようになったことを園だより・クラスだよりでお知らせしたほか、個別に電話で伝えることにより、保護者とのかかわりを深め、信頼関係を築くことができました。また、幼稚園内での遊んでいる様子や行事の様子等、HP を毎日更新し、外部へ子どもが成長する姿を発信しました。

（２）保育を見学し、体験できる幼稚園

園庭開放や見学会・随時見学等の参加者を園全体で迎え入れ、同じ年齢のクラスでの保育の体験や園庭遊びを提供しました。時には保護者の方の相談に耳を傾け、アドバイスをを行ったほか、様々な質問に答え、一人ひとりの保護者のニーズに寄り添った対応を行いました。

（３）七園で統一された魅力ある給食

月曜日から金曜日までの自園調理による七園で統一された給食の献立の提供により、子ども達の食に対する変化と偏食の子どもの改善等、保護者の方も子どもも満足して頂いています。メニューが豊富で毎日デザートがでるようになったことも子ども達は喜び、教師の栄養指導や箸の使い方指導・給食を通して食育にも力を入れ指導を行うことができました。箸指導においては今後も指導の工夫をしながら、家庭との連絡を密にして一緒に取り組んで参りたいと思います。

（４）満三歳児クラスの充実

四年保育のカリキュラムの充実を図る為、前年度のカリキュラムの見直しをしました。また、満三歳児クラスの生活や遊びを通して、園児の著しい成長をその都度保護者や HP 内に掲載し、四年保育のメリットや幼稚園教育の良さをアピールし、入園者の増加につなげました。見学会や入園説明会においても、四年保育と三年保育の違いについて説明を行い、実際の子どもの姿もお見せすることで、理解を深め徐々に入園者を増やすことができました。

（５）未就園児教室への参加者の増加

未就園児教室の活動の充実と遊び場としての環境整備に努め、随時参加者の増加を図ることができました。また、年度末の保護者アンケートにおいても、「先生方の温かい対応に安心できた」や、「母子分離ができるようになった」「遊びを通して成長が見られた」等、高評価をいただきました。

《基盤整備》

（６）様々な感染症への対応

コロナやインフルエンザ等の感染症対策においては、子ども達が健康、安全に幼稚園生活を送り、充実した教育活動を行うことができるよう、バス内・保育室内など換気・除菌を心掛けてきました。また給食では、パーテーションを使用するなど、環境を工夫してきました。手洗い指導としてうたに乗せた手洗いをし、衛生に配慮したマスクの扱い、

来園者の消毒の徹底等行ってきました。体調不良・熱の出始めには保護者への連絡を早めに取り、友だちとの距離も取ってクラスターにならないようにしてまいりました。

(7) 業務の効率化とモチベーションの向上

職員会議や行事の打ち合わせ、報告会、反省会をその都度行い、教職員の共通理解を図り、業務内容を見直し、業務の効率化について考えてきました。仕事の効率を考えて改善して行こうと考えています。また、教員間のコミュニケーションを大切に、共に声を掛け合い、助け合い、教員間の信頼関係を深めてきたことで、働きやすい職場環境・人間関係の構築を図ることができました。

【環境配慮】

(1) 環境にやさしい活動

ごみの分別においては各クラスで繰り返し指導したり、イラストで知らせたりしてきたことで、子ども達も意識をもって分別をするようになりました。また、廃材遊びを通して、保護者の方にもエコ活動の大切さを知らせることができ、子ども達も廃材遊びから工夫する力や考える力等、身につけることができました。

(2) ペーパーレス化の推進

保護者の方への連絡を印刷物から「れんらくアプリ」を通した方法へと切り替えはじめました。まだお知らせの部分では資料として配布することもありましたが、紙・インク・機械の劣化等考慮し、令和6年度よりペーパーレス化に移行してまいります。

10. 聖徳大学多摩幼稚園

【教育研究】

《教育の質の向上》

(1) 教育目標である「いつもにこにこ元気な子ども」が育つ幼稚園

幼児の主体的な活動を促すために、安定した情緒の下で自己を十分に発揮できるように、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする知識及び技術の基礎を育てる保育を展開することができました。

(2) 「心」と「体」のバランスのとれた園児の育成

個別指導を要する幼児も含め、年間を通じて異年齢との交流活動を多く取り入れ、友達とのかかわりを深めることで「思いやる心」が育ち、また栄養バランスのとれた附属七園統一の給食の提供や広い園庭をのびのびと活動をし「丈夫な体」が育ち、安定した情緒を図ることができました。

(3) 教育課程の実施状況を評価し、その改善を図る(教員のスキルアップ)

幼児が思わず関わりたくなる環境の構成を工夫する力や、幼児の主体性と教師の意図性がバランスよく絡み合うような保育を展開しました。

【地域・社会貢献】

(1) 子育てパートナーの役割を担う幼稚園

保護者の子育てに関する悩み、保護者のニーズの把握など、積極的に受け入れ対応してきました。今後は聖徳大学、聖徳大学幼児教育専門学校の教員や聖徳大学保健センターからの支援をうけ、より子育てパートナーの役割を担う幼稚園を目指していきます。

(2) 就園前の乳幼児が楽しめる幼稚園

父親にも参加してもらえるよう一部土曜日に園庭開放を設定したり、イベント性を持たせ、教員全員が就園前の乳幼児と接する日を設定したり、より幼稚園の楽しさを知らせることができました。

(3) 地域と交流している幼稚園

高齢者施設の訪問だけではなく、今年度初で幼稚園に地域の方々を招待した「地域交流デイ」を開催しました。少人数ではありましたが、幼稚園の生活の一部をみていただき、幼児との触れ合いを楽しんで頂きました。

【管理運営】

《園児募集》

(1) 子どもの成長が日々感じられる幼稚園

ホームページでは「幼稚園の様子」を日々更新し、保護者や外部へのアピールを行なってきました。また、クラスの様子をポートフォリオ等で保護者や幼稚園見学者に見せて、幼児が楽しく過ごしている様子と共に成長の過程を随時伝えてきました。

(2) 未就園児教室への参加者の増加

1歳児(もも組)への入会を進め、早い時期から本園とのかかわりをもち、入園にむすびつけられるように努めました。

(3) 満三歳児クラスの充実

一人ひとりがのびのびと喜んで園生活を送っている姿を可視化し、保護者に安心感を持ってもらい、未就園児教室(2歳児)から誕生日を期に入園に移行してもらうことができました。

(4) 自園調理による給食提供の差別化

月曜日から金曜日までの給食提供により、就労されている保護者には特に喜ばれました。自園調理を行なっていることを未就園児に知らせ、給食体験に参加していただき入園にむすびつけることもできました。

(5) 送迎バスの小型化による利便性の向上

小型化になったことで、利用者の自宅近くまで迎えに行くことができ、利用者には喜ばれました。また、未就園児向けの行事にも、駅との送迎を行うことで、幼稚園までの交通の不便さを少し解消でき、利便性が向上できた点もありました。

《基盤整備》

(6) 感染症への対応、安全安心な幼稚園づくり

衛生環境は常に整え、様々な危機を管理し子どもの健やかな育ちを守ってきました。

(7) 業務の効率化

教職員の共通理解を図り、業務内容を見直し、業務の効率化と経費の節減に努力してきました。また、教員の学び合う同僚性も高めることができました。

【環境配慮】

(1) 環境にやさしい活動をする幼稚園

エコキャップ運動が地域の方に周知されてきており、随時収集でき、保護者の勤務先からのご協力もあり、大量のキャップが回収されています。幼児達と一緒にキャップの色分けやはめ込みを行い、エコキャップアートとして展示されています。また、牛乳パックを再利用し、手作りはがきを作成し、年賀状として活用しました。

(2) ペーパーレス化の推進

保護者への連絡を「れんらくアプリ」を通した方法に切り替え、教職員間の資料においても適宜切り替え、ペーパーレス化を推進してきました。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:百万円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	79,003	77,387	75,895	73,555	71,446
流動資産	8,004	6,750	5,394	7,337	5,974
資産の部合計	87,008	84,137	81,289	80,892	77,420
固定負債	11,921	10,983	9,799	11,609	10,473
流動負債	4,635	4,952	5,249	4,963	4,793
負債の部合計	16,556	15,935	15,047	16,572	15,266
基本金	120,395	121,520	122,869	121,639	120,950
繰越収支差額	△49,944	△53,318	△56,628	△57,320	△58,796
純資産の部合計	70,451	68,202	66,241	64,319	62,154
負債及び純資産の部合計	87,008	84,137	81,289	80,892	77,420

イ) 財務比率の経年比較

・運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、基本金比率、積立率等

(単位:%)

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運用資産 余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	-29.0	-31.6	-52.6	-52.8	-37.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	172.7	136.3	103.4	147.8	124.6
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	19.0	18.9	18.5	20.5	24.6
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	355.6	365.1	268.7	402.9	320.7
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	94.8	95.4	96.2	96.7	95.3
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	14.2	12.0	9.2	12.2	10.1

※「運用資産」＝現金預金＋特定資産＋有価証券

※「要積立額」＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位: 百万円)

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	7,309	7,243	7,233	7,408	7,211
手数料収入	160	159	162	162	152
寄付金収入	173	158	124	231	294
補助金収入	1,746	1,471	1,475	1,728	1,532
資産売却収入	73	465	201	1,006	630
付随事業・収益事業収入	415	299	349	355	363
受取利息・配当金収入	30	38	39	30	35
雑収入	476	400	548	635	909
借入金等収入	2,000	0	0	3,000	0
前受金収入	1,972	1,709	1,756	1,623	1,640
その他の収入	4,179	3,771	3,459	3,231	3,669
資金収入調整勘定	△2,638	△2,361	△2,266	△2,393	△2,232
前年度繰越支払資金	6,769	7,011	6,238	4,717	6,539
収入の部合計	22,664	20,363	19,318	21,734	20,742

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	6,458	6,223	6,238	6,119	6,191
教育研究経費支出	2,710	2,520	2,522	3,029	2,980
管理経費支出	1,247	1,181	1,160	1,298	1,355
借入金等利息支出	124	127	124	115	147
借入金等返済支出	765	938	938	1,163	1,163
施設関係支出	746	236	170	349	261
設備関係支出	224	234	147	226	247
資産運用支出	226	126	226	26	26
その他の支出	4,267	3,694	4,110	4,140	4,491
資金支出調整勘定	△1,116	△1,156	△1,035	△1,270	△1,380
翌年度繰越支払資金	7,011	6,238	4,717	6,539	5,261
支出の部合計	22,664	20,363	19,318	21,734	20,742

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	9,899	9,684	9,841	10,323	10,434
教育活動資金支出計	10,416	9,925	9,920	10,446	10,527
差引	△516	△240	△79	△123	△93
調整勘定等	17	△378	△65	163	△30
教育活動資金収支差額	△499	△619	△144	40	△123
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	452	47	51	1,203	658
施設整備等活動資金支出計	970	470	317	575	508
差引	△518	△424	△266	628	150
調整勘定等	290	480	△180	△176	224
施設整備等活動資金収支差額	△229	57	△446	452	374
小計(教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額)	△728	△562	△590	492	251
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	5,175	3,608	3,310	5,704	3,066
その他の活動資金支出計	4,205	3,819	4,240	4,374	4,592
差引	970	△211	△930	1,330	△1,526
調整勘定等	0	0	0	0	△3
その他の活動資金収支差額	970	△211	△930	1,330	△1,529
支払資金の増減額(小計＋その 他の活動資金収支差額)	242	△773	△1,520	1,821	△1,278
前年度繰越支払資金	6,769	7,011	6,238	4,717	6,539
翌年度繰越支払資金	7,011	6,238	4,717	6,539	5,261

ウ)財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

(単位:%)

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動資金収支 差 額 比 率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	-5.0	-6.4	-1.5	0.4	-1.2

※教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計－教育活動資金支出計＋教育活動調整勘定等

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:百万円)

科目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	7,309	7,243	7,233	7,408	7,211
	手数料	160	159	162	162	152
	寄付金	143	135	118	226	277
	経常費等補助金	1,397	1,449	1,431	1,536	1,522
	付随事業収入	416	298	348	361	362
	雑収入	291	333	413	515	785
	教育活動収入計	9,716	9,616	9,705	10,210	10,308
	事業活動支出の部					
	人件費	6,273	6,171	6,115	5,981	6,041
	教育研究費	4,402	4,162	4,082	4,590	4,516
	管理経費	1,538	1,462	1,437	1,566	1,615
	徴収不能額等	0	1	0	0	0
	教育活動支出計	12,213	11,796	11,634	12,136	12,173
	教育活動収支差額	△2,497	△2,180	△1,929	△1,927	△1,864
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	30	38	39	30	35
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	30	38	39	30	35
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	124	127	124	115	147
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	124	127	124	115	147
	教育活動外収支差額	△94	△89	△84	△85	△113
経常収支差額		△2,591	△2,269	△2,013	△2,012	△1,977
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	1	98	1	214	123
	その他の特別収入	387	53	56	204	46
	特別収入計	388	150	57	418	168
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	46	130	5	328	357
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	46	130	5	328	357
	特別収支差額	342	20	52	90	△189
	基本金組入前当年度収支差額	△2,248	△2,249	△1,961	△1,922	△2,166
基本金組入額合計		△864	△1,125	△1,349	△356	△237
当年度収支差額		△3,112	△3,374	△3,310	△2,278	△2,403
前年度繰越収支差額		△47,049	△49,944	△53,318	△56,628	△57,320
基本金取崩額		217	0	0	1,586	926
翌年度繰越収支差額		△49,944	△53,318	△56,628	△57,320	△58,796
(参考)						
事業活動収入計		10,134	9,805	9,801	10,658	10,511
事業活動支出計		12,383	12,054	11,762	12,579	12,677

イ)財務比率の経年比較

- ・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率等

(単位: %)

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	64.4	63.9	62.8	58.4	58.4
教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	45.2	43.1	41.9	44.8	43.7
管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	15.8	15.1	14.7	15.3	15.6
事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-22.2	-22.9	-20.0	-18.0	-20.6
学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}}$	75.0	75.0	74.2	72.3	69.7
経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}}$	-26.6	-23.5	-20.7	-19.6	-19.1

※「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

※「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計